ナチスの放送戦争

深尾重正著

ARS

ナチスの放送戰爭

深尾重正 著

ナチス叢書

アルス 刊

責任編輯

陸軍中將 大島浩閣下・小島威彦

ナチス叢書刊行の言葉

支那事變を契機とする皇道世界維新戰の發展は、これに呼應する第二次大戰により、歐洲全土を獨伊樞軸ブロックと化し、この世界史的轉換は、まさに、英米民主主義共同戰線を結成せしめ、インド、南洋、濠洲、カナダ等全面に亙る對日封鎖陣を形成せしめんとする。

ナチス・ドイツは何によつて、かくも壓倒的勝利を獲得したか。これこそヒットラー總統が、日獨伊防共樞軸による、ゲルマン圈の確立よにつて實現し得たものであり、しかも今や英本國攻略により、イギリスの植民地分離は、更に新しき世界長期戰に發展せんとする。

まさに新興ドイツは、我が日本の國體を研究し、日本精神を體得して、荒廢せんとする舊歐洲に、新しき世界を建設せんとする。

かくてドイツを知ることは、日本を知ることであり、また日本を知ることは、ドイツを把握することである。

本叢書は、この日本―ドイツの緊密なる世界史的關係を認識し、再强化するためにナチス・ドイツの本質を闡明せんとし、併せて、我が日本が何を爲すべきかの焦眉の問題に對する、明確なる解答を與へんとするものである。

目次

ナチスの放送戰爭

一、歐洲戰爭とラヂオ戰

1 空の勝利

曾てイギリスは海を制することによつてイギリス的世界を作り上げることに成功し、また海を守ることによつてそのイギリス的世界を守り、イギリスを主體とする近世史を自己の思ふまゝに操つて來たのであつた。

換言すれば、十六世紀末無敵を誇つたスペイン艦隊の北上に對し、イギリスはその海賊的エネルギーを集結し、海賊艦隊を以てスペイン無敵艦隊を打破り、茲に初めてヨーロッパ中世史より近世史への轉換の第一歩を踏出し、やがて世界制覇の鍵、東洋へ掠奪の艦隊を進出せしめたのであつた。印度に支那に南洋に、スペイン、ポルトガル、オランダと角逐しつゝ、進出し來つたイギリスは、此等の諸地方が日本の歷史的地盤であり、日本の儼たる存在の下

に安定し來つたことを見てとるや、一六一九年オランダと東洋に於ける攻守同盟を結び、スペイン、ポルトガル二國の東洋進出に對抗すると同時に、一方に巧みに日本をして鎖國の方向に向はしめ、そのことによつて日本南方圏を盟主なき分裂狀態に陥れ、日本海上勢力たりし八幡船並に海外商人を祖國より切離し、かくて印度、支那、南洋を掠奪し、更にその同盟國たりしオランダに對しては一六五一年航海條例を發してその海上權を壓迫萎縮せしめ、代つて進出せるフランスに對しては激しい競爭の後フランス革命を通じて勝利を得、遂にその大海軍は七つの海を制すと言はれ、その掠奪せる領土は經濟資源の寶庫のみでなく、海上交通の要衝を押へて茲に海の黃金ルートを完成し、また世界の海に海底電線を張り廻らして通信宣傳網を完備し、この海の三つの要素、海軍と海軍基地と海底電線の上に立つて初めて、植民地民族の怒りに燃えた苦惱の叫聲の中にも安んじて夢を貪ることが出來たのであつた。

このイギリスの世界制覇にとつて代らんとし着々軍備を整へつゝあつたカイゼル・ドイツに對しイギリスは、第一次歐洲大戰開始さるゝや、その大海軍を以てドイツの經濟封鎖をなすと同時に、ドイツの敷設せる海底電線を二萬浬に亘つて切斷し、通信封鎖を行つたのであ

つた。
この結果は「ドイツは戰爭に勝つて宣傳に負けた」と表現されてゐる如く、全くドイツ側を不利な狀況に陷れ、世界の輿論はイギリスの思ふまゝに引廻されたのであつた。
それより約廿五年後の今日、ナチス・ドイツはヒトラー總統の天才的頭腦の下に新しき戰爭國家の建設を進め、「海のイギリス」に對し「空のドイツ」を以て挑戰したのであつた。卽ち海軍と海軍基地と海底電線に代つて、空軍と空を含む國土建設と、そしてラヂオとによる立體的な作戰によつて、壓倒的な勝利を獲得しつゝあるのである。
この第二次歐洲戰爭に於けるドイツの優勢は、最早完全に空の時代が到達せることを明白ならしむると同時に、ラヂオは所謂文化機關としてのみ存在すべきでなく、今や新銳の武器として戰ひに參加すべきであることを敎示するものであり、更にその戰ひそれ自身が新しい文化創造であることを實證したのであつた。

2 放送戰時體制

昭和十四年九月一日、英佛の武力援助を過信せるポーランド軍のシレジア地方侵入、放送局占領の暴擧に對し、ヒトラー總統が「武力には武力を以て――」と民衆の歡呼の中に叫んで立つや、イギリス、フランスも對獨宣戰布告によつてドイツの背後を牽制せんとし、玆に歐洲戰爭は武力戰の決定的段階に入り、各國の放送も緊張せる戰時體制下に置かれたのであつた。

先づイギリスは、ドイツの空襲を極度に警戒し、放送による敵機の誘導を避けるため、全國の放送局の波長を二つに制限し、また全國を同一の番組に塗り潰し、コールサインやローカル・ニュースも中止し、波長と放送内容による放送局の識別を不可能にし、敵機の夜間或は高空よりの爆擊に便宜を與へることのない樣にしたのであつた。併し乍らこの事は他面には二つの不都合を伴つた。即ち舊の波長を變へて二つの波長に制限した結果、地方によつては

自國の放送よりもドイツ側の放送の方が遙かによく聽えると言ふ狀況が現れたこと、更に全國を同一番組にした結果、時としてはほんの一部の地方に空襲が行はれた際にもその空襲警報は全國に同時に送出され遙か遠くの方に住む人々の曉の夢を破り、全國民の神經を磨り減らすといふ結果を生ずる事があつたのであつた。（從つてこの體制は間もなく改善されたのであるが――）

之に對してドイツの國內放送はさしたる變化もなく、全國の各放送局の波長も舊のまゝでたゞ二系統の根本番組を作成し、放送局を國境方面と中央部の二集團に分つて二つの異なる番組を送出したのであつた。これによつてドイツの國內放送はイギリスの場合に見られた樣な不都合は全く無く、その任務を充分に盡し得たのであつた。

更にドイツは外國放送聽取禁止令を發布し、外國の放送を聞いた者は死刑乃至嚴罰に處することとし、敵國のデマ放送による國內攪亂を防止したのであつた。外國の放送などに餘り緣のない我が國などから見ると、この嚴重な統制は不思議に思はれるかも知れないが、ヨーロッパの如く狹い地域に各國の放送が入亂れてゐる所では、極く普通の受信器でも容易に外

國放送が聞えるのであつて、全國民に自國の放送のみを聽かせるには矢張り此の樣な嚴重な法令が必要なのである。最初の中この法令をドイツの極端なる統制主義の現れとして嘲笑してゐたイギリスも、今や戰況の不利に加へてドイツの巧みなる第五列の活動と相俟つた對英放送による國內擾亂の有樣に聊か慌て氣味になつてゐる樣である。

フランスにあつては國營と私營の放送局が互に對立し、聽取者の御機嫌とりや廣告放送の爭奪をやつてゐた平時狀態から急遽全放送局を陸軍省の管轄下に置いて戰はんとしたのであつたが、大體フランスの放送はドイツに比べて甚だ貧弱なものであり、フランスに居てフランスの放送を聞かうとして受信器のダイヤルを廻すと、必ずドイツの放送が二つ三つ入つて來てフランスの放送はなか〳〵捉まらない。やつとフランス語の放送が出たかと思ふとそれがドイツのフランス向の宣傳放送であつた、等と言ふ皮肉な話が戰爭直前のパリに語られてゐた狀態であり、陸軍省の直轄下に置いて見た所が全くドイツの電波に壓倒され殆ど活動の餘地はなかつた。

以上ドイツ並に英佛のポーランド戰開始當時の國內放送の模樣の極く大略を述べて來たの

であるが、之をその後の戰況と照し合はせて考へて見ると、敵機の誘導を極度に恐れて波長並に放送番組の極端な制限を行つたイギリスの上空はどうであらう、殆どドイツ空軍の制壓下に置かれ連日連夜の大空襲が悠然と行はれてゐるではないか。之に反し波長の變更を行はない從つて所謂科學的にはこの波長を便りに空襲が可能である所のドイツの上空は如何であらう。勿論何回かのイギリス機の空襲はあつたが、それがドイツの放送電波の誘導あつたが爲にドイツ上空に達することが出來たものとは考へられない。

要するに放送電波或は放送內容は空襲に對して或條件の下に或程度の便宜を與へることがあるかも知れぬが、空襲は放送電波の誘導有無に拘らず充分行はれ得ると考へねばならぬ。さうだとすれば、イギリスの如く不便を忍んでまで波長の變更を行ふよりは、ドイツの如く積極的に放送を使ひ、放送を攻擊の武器に使ふことこそ結局敵に對する最大の防禦となるのではなからうか。

だがドイツの放送政策乃至は放送計畫は決して敵の空襲を度外視してゐる譯ではないのであつて、寧ろ平素より充分の準備があつたればこそ戰爭開始に當つて慌てゝ波長を變更した

り、或は軍の管轄下に置いたりする必要もなく、思ふ存分放送を活躍せしめることが出來たのであつた。

ヒトラーが政權を獲得して以來、ラヂオの機能を特に重視し、獨逸放送會社を宣傳省の直轄下に置いて、他の諸部門と關連せしめつゝ綜合的な企畫の下に宣傳文化工作にその全能力を發揮せしめたことは、既に度々紹介されて來た所であるが、單に放送の內容や制度ばかりでなく放送局の建設計畫もその一例である。

ドイツの放送局建設は國土計畫、都市計畫との密接な聯關の下に計畫されたものである。その國土計畫は、フランスやポーランド等に見られた如く、僅か一二の主要都市の空爆或は占據によつて國家の重要機關、重要產業が殆ど壞滅に瀕すると言ふ樣な少數大都市集中の近代國家に代つて、全く新しい戰爭國家の建設を目標としてなされ、重要施設を各地方に分散せしめ、都市の人口制限をなし、大都市を避けて平均せる防空都市を散在せしめたのであるが、放送局建設も之と並行して、一二の放送局にのみ重點を置くことはせず、各地方局の機能を充實して地方文化の中樞たらしめると同時に、ドイツのどの地方にあつても少くとも三

つの放送局の放送が聽き得る樣に考慮されてゐるのである。このことはドイツの放送に中心がないと言ふことではない。總ての局が中心になり得る機能を備へつゝ中央部の指令の下に一糸亂れず運行されてゐるのである。かくて假令一つの放送局が空爆その他によつて放送不能となつても、それが直ちに全國の放送に致命傷を與へると云ふ樣なことにはならず、またその放送を聽いてゐた聽取者は適宜他の放送局の電波を捉へることによつて重要なる報道を直ちに受信出來るのであつて、ドイツの全土は斯かる强靱な放送網を以て覆はれてゐたのであつた。

また今次の歐洲大戰に直接關係のある事柄では放送軍の組織であるが、ドイツには放送從事者養成の學校があり、人材を養成する一方、前述の如く各地方局を强化したため放送關係の人材は極めて豐富であり、いざ開戰といふ場合國內の放送に何等の支障もなく、直ちに豫ての計畫通り優秀なる放送軍を編成し、之を前線の各所に縱橫に活躍させ得たのであつた。

或者は放送自動車を驅使して第一線に在つて緊急の放送をなし、或は占領地區の放送局を直ちに修理し、或は將兵を慰問激勵し、或は敵軍を攪亂し、また各國語のアナウンサーを用

意して世界の耳にドイツの生々しき勝利を傳へる等、その活躍は實に今次の大戰史上に特異な存在であり、その功績は特筆に値するものであらう。

我が國に於ても、近頃有線放送等が唱へられ、戰時に於けるラヂオの研究が進んで來たことは喜ばしいことではあるが、有線放送の如く敵に利用されぬ様、敵に聞かさぬ様にと防禦の方面のみでなく寧ろラヂオの特性を生かして、敵に聞かせる様、敵を攻撃する様な方面をも考へるべきであらう。そして若し空襲を顧慮して有線放送を徹底的に推し進めるなら、當然電線を地下に埋めることを考へ、更に地下放送局、地下都市の建設にまで考へ及ぶべきである。一旦空襲をうけた場合甚大なる被害を豫想される現狀の電信電話線を放置しては、有線放送の戰時に於ける全き運用は期し難く思はれるのである。

3　各國の宣傳戰

愈々ドイツ・ポーランド戰の火蓋が切られるや、ヨーロッパ各國のラヂオは夫々猛烈な宣

傳戰を開始したのであるが、各國の宣傳の主眼を拾つて見ると、先づポーランドはドイツ軍の慘虐を盛んに訴へ世界の同情を惹かんとし、また英佛の武力援助を恃む一方獨伊の離間を策し、「ドイツ空軍カトリック教會を爆撃す」とのニュースをふりまき、カトリック系ドイツ人並にカトリック教國たるイタリアの人心に動揺を與へんとしたのである。

このポーランドを操るイギリスは之に呼應して自由主義國家の危機を說いてアメリカを參戰に導かんとし、或は「敵はナチス政權でありドイツ國民ではない」との放送を繰返しドイツの國内攪亂を計り、更に日獨伊離間に全力を擧げ「獨ソ協定はドイツの防共協定に對する裏切なり」との宣傳を猛烈なる勢を以て流布せしめ、或はドイツ軍の脆弱を宣傳し、之がため當時日本上層部の一部、所謂知識階級、言論機關等の大部分は全くこのイギリスの宣傳謀略に乘ぜられ、ドイツを裏切者と詰り、ドイツの敗戰を信じ、遺憾なく自己の無知識を發揮し、玆に歐洲問題は複雜怪奇、白紙還元となり、歐洲大戰不介入が聲明され、三國同盟反對論者は得々としてその哀れむべき「賢明なる見透」を誇つてゐたのであつた。(この樣な情勢の中に獨り雜誌「戰爭文化」のみが眞に正しき見解を以てイギリスの策謀を暴き、やがて約

一年の後憲兵隊の活躍によるロイテル通信日本支社員コックスの檢擧によつてこの策謀の眞相が明白にされたのであつた。）（附錄參照）

そしてこの情勢に呼應するかの如くイギリスの放送は「日本は必ずイギリスに味方する」と叫んでゐたのである。

フランスにあつては連日英佛の固く提携すべきことと、國民の戰爭氣分を煽り立てることに必死であり、アメリカは「國家としては中立を守るが、個人としての米國民に對しては中立を守るやう要求することは出來ぬ」と、如實にアメリカの弱點を曝しつゝ所謂同情的中立を聲明したのであつた。

これ等自由主義國家群に對してドイツは獨伊樞軸の磐石を宣言、今日の戰爭の責任は全くイギリス一國の責任にして、ドイツはイギリスのみを眞の敵として戰ふことを强調、更に豫てよりアメリカ國民にドイツ軍備の怖るべきことを說き、アメリカの中立維持を力說するリンドバーク大佐の言葉を藉りて世界に放送、自由主義國家間を分離し、小國家群をして中立を守らしめんとするのであつた。

之に應じてイタリアも樞軸の强固なることを宣言すると共に、アメリカ、フランス、バルカンを牽制し、ドイツの背後を安泰たらしむる策戰的中立を持してゐた。然るに明かに樞軸國の一員たる日本に於てさへこの苦心の策戰を知らうともせず、單にイタリア參戰せずとの理由を以て樞軸危しとする英米の謀略的宣傳に耳を藉す者の如何に多かりしことか。我々は今茲に如何に日本の言論機關が英米の宣傳に躍らされて來たかを顧みると共に、先頃迄盛んに傳へられた「イタリア弱し」との聲が、何所から生れ、何を意圖するものであるかを冷靜に判斷し、またそれを裏書せんとするいとも巧妙なる尤もらしき理由をも徹底的に解剖してこの誤まれる幻想を打破すべきであらう。

4　電波は亂れ飛ぶ

昭和十四年八月、日英東京會談はイギリス側の策動により延引を重ね、從つて日獨伊防共協定强化に對する日本側の態度は依然低迷をつゞける、しかもポーランド問題は刻々切迫す

る、ヒトラー總統の焦慮、遂に二十一日獨ソ不可侵協定成立、玆に至つてイギリスは日英會談延引の目的を達し會談は決裂、かくて全世界の關心はポーランドに集中し、世界史は不氣味な運命を祕めたまゝ刻々と移りゆく。八月三十一日午後八時(日本時間九月一日午前四時)、ポーランド軍シレジア他二ケ所に於て越境、ドイツ軍と激戰中とのニユースが世界の耳目を衝つ、町から町へ、國から國へと流れるラウドスピーカーの聲——

九月一日【ベルリン一日發東朝大朝特電】午前四時ドイツ放送は「武力に對しては武力を以て」答へる旨のドイツ軍に與へたヒトラー總統の宣言を放送、つゞいてダンチヒ市大ドイツ復歸令とダンチヒ最高主權者フォルスター氏の復歸宣言を放送。

同月同日【ベルリン一日發同盟】ラヂオは殆ど十分おきに特別ニユースを放送、ヒトラー總統の國會演說も深夜まで五六回も繰返しく放送され、國民の覺悟を促してゐる。また新設の國防會議は一日、外國ラヂオ放送の聽取を禁じ、違反者は嚴罰する旨發表した。

同月同日【ベルリン一日發同盟】ドイツ政府はラヂオを通じてポーランド國內在住

の全外國人の即時避難を勸告し左の如く警告した。

一、ポーランド全土を危險區域とす

一、軍事行動の可能性あるにより、ポーランドに滯在する外國人は、自己の危險に於て之を行ふものとす

同月同日【ワルソー一日發同盟】ワルソー放送は一日、獨波間の戰鬪狀況につき左の如く發表した。

『獨逸軍は一日ポーランド廻廊の各都市に對し、大規模の攻擊を開始し、更に上部シレジアにも攻擊を加へつゝあり、クラカウ、カトヴィッツの兩都市はドイツ空軍の爆擊を受けた』右政府發表があるまでは市民は空襲の報を信じなかつたが、右發表で俄然極度の昂奮を捲起し、防空壕に殺到、街上の交通は杜絕した。

同月同日【ベルリン一日發同盟】ドイツ政府は一日早朝ラヂオを通じて、ドイツ海軍は作戰の必要により、ポーランド軍港グヂニア港を封鎖した旨公表した。

同月同日【ベルリン一日發同盟】一日ドイツ空軍がクラカウ、カトヴィッツ、グロ

トナウ等を含む無防備都市を爆撃したとのワルソー放送局の發表に對し、ドイツ外務省スポークスマンは、右は全然無根の虚說なりと否定した。

同月同日【ワルソー一日發同盟】ドイツ空軍は一日午前ワルソー爆擊を敢行したがポーランド側放送局では、ワルソーを空襲したドイツ機は、ポーランド空軍によつて擊退されたと發表した。

同月同日【ローマ一日發同盟】イタリア政府は一日午後三時ムソリーニ首相司會の下に國務會議を開催、午後四時半ラヂオを通じて、今次の獨波衝突に對しイタリアは戰爭に參加せず外交、軍事、經濟を戰時態勢に置き、事態の推移を嚴重に監視することに決定した旨發表した。

右決定に基き燈火管制は解除され、市民は一脈の安堵を感じ、ラヂオも國民を興奮に導く軍歌類の放送を依然として一切停止してゐる。

同月二日【ワルソー二日發同盟】空襲下のワルソー市民はラヂオの擴聲器を圍んで英佛側のポーランド支援に關するニュースに耳を傾け猛烈な拍手を送つてゐる。ラヂオ

は昨一日の空襲による被害は負傷十名、死者二十一名であつたと放送し、ドイツは終日數次の空襲を以てポーランド國民の意氣を沮喪せしめんとしてゐるが、却つて國民の訓練と警戒心を愈〻强めるだけのことであると說いてゐる。

同月同日【ベルリン二日發同盟】ドイツ政府當局は二日DNB通信社を通じ、一日のチェンバレン首相の議會演說が、破局の全責任をドイツに歸せしめんとしてゐる點を反駁し、次の如くドイツの立場を、全世界に闡明した。

『チェンバレン首相は危局回避の爲め凡ゆる努力を試みたと言つてゐるが、それにしてはチェンバレン首相は重大なる次の事實を忘却してゐるものと言はねばならぬ。卽ち英國こそはポーランドに白紙委任狀を與へ、ポーランドをして挑戰的にして傲慢なる政策を繼續せしめたのであり、か〻る事實こそ今日の事態を招來したのである。現下の破局に對してその責任はドイツにありとなすチェンバレン首相の言明は、全く事實と合致しない。ドイツ政府は過去數ケ月に亘つて獨波係爭の平和的解決に努めて來つたが、英國は遂にドイツの公正なる提議を拒否するに至つた。しかもドイツ軍隊は放送局所在のグ

ライヴィッツその他數ケ所に於て波蘭軍が國境を侵犯するに至るまでは、斷じて波蘭領を侵さなかつたのである』

同月同日【ベルリン二日發讀賣特電】ワルソーでは英語で盛んに、ワルソー爆撃さると報じ、ドイツ語ではカソリック教會爆撃さるると放送してゐるとの情報であるが、ポーランド語でそれを放送しないところから見ると完全にデマなることを證明してゐる。一方ではロンドンに聽かせて英國を起たしめ、他方ではカソリック・ドイツ人に聽かせようとの魂膽だ、とこゝでは言はれてゐる。

かくしてヒトラー總統は國會に於て「勝利か然らずんば死か……余も亦一兵卒として戰場に赴かん、余にして戰場に斃れんか、余の後繼者はゲーリングなり、ゲーリングにして斃れんかヘスこれを繼ぐべし、ヘス亡き後はドイツ國民にして最も勇氣ある者これを繼げ」との歷史的大演說を行ひ、この情景は電波となつて全ドイツ國民の士氣を鼓舞する。

九月三日英佛遂に宣戰布告、この日のラヂオはヒトラー總統、イギリス皇帝、フランス首相、アメリカ大統領と世界の大立物の聲をのせて飛交ふ。つい一ケ月前までは天津租界問題

を巡つて熾烈な反英運動を展開してゐた日本、その日本の新聞はイギリス皇帝の放送を最大級の敬語を以て掲げる。

九月三日【ロンドン三日發東日大毎特電】午前十一時十五分（日本時間三日午後七時十五分）チェンバレン首相は、對獨最後通牒の期限完了とゝもに、ラヂオを通じて大要左の如く全世界によびかけ、斷乎對獨宣戰行ふを旨放送した。

『予は今閣議室からこの放送をしてゐる。英國はいまやドイツとの間に戰爭狀態に入つた。ヘンダーソン大使は今朝ドイツ政府に對し最後的警告の通牒を手交したがこれに對しドイツ政府からは何等の回答も接受されなかつた。これは戰爭を意味するものである。英帝國はポーランドがナチス・ドイツによつて侵略された場合は對波援助を行ふとの誓約を盟邦フランスと共に斷乎遂行するものである。ヒトラー總統に對しては、たゞ武力によつてのみ阻止し得るのみだ。予が今まで平和維持のために盡したあらゆる努力は今や水泡に歸した。予が如何にこれを遺憾とするかは察して頂きたい』

同月同日【ロンドン三日發東朝大朝特電】英國皇帝ヂョーヂ六世陛下はバッキンガ

ム宮殿から三日午後六時（日本時間午前二時）より六分間に亙り對獨開戰に臨む英本國全領土の國民に呼びかける歷史的ラヂオ放送を行ひ給ひ『力は正義なりと云ふ原始的な原則の支配に敢然起つて抗するものである』旨を特に强調され、五億の英帝國民が靜肅と團結の實を擧げ奉公の任を完うせんことを訴へ給うた。皇帝の御放送が終るや英國々歌が吹奏され、つゞいて御放送は各國語に飜譯され深甚の感銘を與へた。

同月同日【パリ三日發同盟】英國の對獨宣戰布告に遲るゝこと六時間、三日午後五時ダラディエ佛首相はラヂオを通じてフランスの決意を國民に告げ、全フランスはその名譽と自由を護るため、一致して暴虐ドイツに對して戰はんことを要望した。その要旨左の通り。

『フランスの總ての男子及び婦人よ、去る九月一日拂曉以來ポーランドは最も殘酷野鄙なる侵略の犧牲となつた。その國境は侵害せられ、その都市は空爆を受けた。その流血の慘の責任は、ひとへに全くヒトラーの率ゐる政府にあるのだ。ドイツの望むところはポーランドを擊滅し、出來るだけ早急に全歐洲に覇を唱へフランスを從屬せしめんとす

るにある。この最も恐るべき暴虐に對抗し、われ〳〵フランスはわが國、わが家庭及びわれ等が自由の爲に戰はなければならぬ。われ〳〵はわれ〳〵の上に戰爭が課せられたがために戰爭するのだ』

同月同日【ベルリン三日發東朝大朝特電】ヒトラー總統は三日午後ドイツ國民、西部戰線の獨軍及びナチ黨員に對する三つの長い布告を發しラヂオで放送したが、國民に對する布告では英國の包圍政策を非難し、

『ドイツが從來英國との諒解を企てたに拘らず英國は包圍政策をとりポーランド問題につき最後通牒を寄せたが、ドイツはこれを拒絕した。英國がドイツを破壞せんとするならばドイツはこれに相手する九千萬のドイツ國民がある。吾々は吾々の目的を貫徹するのだ』

と述べ、西部戰線の兵士に對する布告では、英國の要求と獨ソ條約の經緯を說明し西部戰線を死守せよと述べ、ナチ黨員への布告では國民に對する同樣の主旨を述べてゐる。

同月同日【ベルリン三日發同盟】ドイツ政府は三日午後ラヂオを通じて、英佛の對

獨通牒を考慮することを拒否したが、その拒絶内容は、
一、ドイツは英國のドイツ軍撤兵要求を拒絶す
一、ポーランドをして對獨挑戰を敢行せしめたのは一に英政府の責任である
一、今後各國々民を襲ふ凡ゆる不幸並に苦惱の責任は英の負ふべきものである

同月同日【ワシントン三日發同盟】ルーズヴェルト大統領は三日午後十時ラヂオを通じて全國に呼びかけ、米國の中立維持を聲明すると同時に大統領の英佛側に對する同情を示唆する左の如き演説を行つた。

『米國は國家としては飽くまで中立を維持する方針である。但し予は個々の米國民に對しては國家の場合と同樣に思想上中立を守るやう要求することをなし得ないと思ふ。何れにしても予は米國の中立並に平和維持の爲め最善を盡す決意である』

同月同日【ワルソー三日發東日大毎特電】ポーランド政府は三日左の如くラヂオ放送した。

『ドイツ空軍は落下傘により兵員を降下せしめ電信電話線その他の通信機關を切斷する

の新戰術をとらんとしつゝある。右の目的を以て數名のドイツ兵はポーランドのある地點に落下傘で降下したとの報告がある。人民はドイツの落下傘降下兵は皆逮捕し武裝解除に協力せよ』

尙、英佛の對獨宣戰布告にワルソーは歡呼に沸きあがり、ラヂオは波蘭國歌と共に英佛の國歌を放送し、街は活氣づいて來た。

同月同日【ブダペスト三日發同盟】ハンガリー政府は三日午後ラヂオを通じてハンガリー、ユーゴースラヴィア、ルーマニア、ブルガリアの四國政府は歐洲大戰勃發の場合には中立國ブロックを形成すべく協議中である旨公表した。

同月同日【オッタワ三日發同盟】カナダ首相マッケンジー・キング氏は三日ラヂオを通じて全國民に放送、ヒトラー總統の世界制覇工作を痛擊した後、カナダ國民は自發的に英國と協力する樣要望した。

同月同日【ニューヨーク三日發同盟】米國に於ける對獨宣戰のニュースは三日午前六時二十五分頃、全米のラヂオを一齊に中止して臨時ニュースとして放送された。

5 アセニア號事件

九月四日、アメリカ市民の話題はアセニア號事件に集まる。卽ちロンドン發のニュースによれば、「イギリス汽船アセニア號はイギリスからの避難民、アメリカ人、婦人、兒童等の非戰鬪員を滿載、ロンドンを出帆アメリカへ向ふ途中英佛海峽に於いてドイツ潛水艦の襲擊をうけて水雷により船底を爆破され沈沒、多數の犧牲者を出した」と傳へられ、俄然ドイツ膺懲の聲が高まつたのであるが、尙イギリスからの第二報が「潛水艦の襲擊は誤りで、ドイツ砲艦の砲擊によるものである」と訂正した所に、眞相に對する一抹の疑問が挾まれたのであつた。

之に對しドイツ政府はラヂオを通じ遲ればせ乍らドイツ潛水艦の攻擊を否定、「商船の無警告襲擊はドイツ海軍の嚴重禁止する所であり、アセニア號は恐らく機雷に觸れたものであらう」とのみ發表。この事件に關する限りドイツの宣傳は全くイギリスに壓倒されたかの如く

であつたが、やがて十月二十二日ゲッベルス宣傳相は自らマイクの前に立ち「刑事被告人チャーチル氏に物を聽く」と題して、全世界にアセニア號事件の眞相とイギリスの惡辣なる謀略を完膚なき迄に暴いたのである。

「余はドイツ政府の大臣として、こゝにラヂオを通じ貴官にお訊ねしたい。貴官も光榮あるイギリス大海軍の海軍卿として責任を以て回答され度い」と冒頭されたこの放送によればイギリスは自らアセニア號の船底に時計仕掛の爆彈を仕掛けて爆沈を計り、之をドイツ潛水艦の仕業として逸早く報道したのであるが、この爆沈が巧くゆかなかつたので慌てゝ附近にあつたイギリス驅逐艦三隻に集中砲擊を命じ漸くその目的を達し、これをドイツ砲艦の砲擊と訂正報道したのであるが、この事實はアセニア號より救出されたアメリカ人の目擊談によつても明かであると述べ、それについてはこの命令を下したチャーチル海相の手許には部下から詳しい報告が行つてゐるだらうから御返答を願ひたいと皮肉を交へて、チャーチルこそ自國民を含む無辜の人民を犧牲にしてアメリカを參戰せしめんとした極惡人であり、第一次歐洲大戰のルシタニア號擊沈と同樣の謀略であることを語り、最後に「全世界の聽取者よ、

只今から刑事被告人ウィンストン・チャーチルの答辯があるでせう」と結んだのであつた。この放送は直ちに各國語に譯されてそれぐに送出され、イギリスは全く面目を失ひ、アセニア號事件を巡る獨英宣傳戰は結局ドイツの勝利に終つたのであるが、これによつてもイギリスの謀略の怖るべきことを知らねばならない。

6　ワルソー戰線

ポーランド戰爭開始後一週間、ドイツ軍は驚異的進軍を續け、ワルソーの陷落は日々に迫り、世界の耳はベルリン放送局とワルソー放送局に向けられてゐた九月八日、ワルソーの放送はワルソー陷落を發表、ワルソー守備司令官の名前を以て「ドイツ空軍は餘りに優秀であり、我が防空施設はその空襲を支へ得ず、こゝにワルソーを放棄す」と發表、ポーランド軍に多大のショックを與へたのであつた。併し乍らイギリス、フランス側の報道は左の如く傳へてワルソー陷落を否定した。

九月八日【ロンドン八日發同盟】八日夜ロイター通信社の報ずる所によれば、ワルソー市長はドイツ軍入城の傳へられた時刻より二時間も後でラヂオ放送を行つてをり、ドイツ軍のワルソー突入說は不確實であるとしてゐる。右市長の放送で、市長は市民に對して、政府は危險を避ける爲め安全な場所に遷つたが、諸君は宜しく壕を掘り、首都防衛の爲最後まで闘はれたいと要請した。

同月同日【パリ八日發同盟】アバス通信の報ずる所によれば、ワルソー防衛軍司令官ツーマ將軍が八日午後十時、ワルソー放送局より、ワルソー未だ陷らず、ワルソー防衛軍はワルソーを死守する旨左の如き放送演說を行つたと報じてゐる。

『ポーランド國軍總監スミグリ元帥は、ワルソー防衛の全責任を吾人に委ね、吾人に對して敵軍の侵入を阻止するよう嚴命した。我々の目下の任務は最早一步も敵の前進を許さぬにある。もしドイツ軍が重ねて進軍するならば、それはポーランドの最後の一兵卒がドイツ軍のタンクの下に蹂躪された後であらう。もし此のラヂオが突如沈默する事があれば、それは敵軍の砲彈によつて破壞された時であり、かゝる場合にはラヂオ以外の

他の方法によつて命令傳達を行ふ事とならう』

何故このやうな現象が起つたか、どちらの放送が正しいのか、世界の聽取者は疑問に包まれたのであるが、之こそドイツ放送軍の目覺しい活躍の結果であつたのだ。

ドイツの戰鬪は先づ猛烈な空襲に始まる。敵の空軍を襲ひ飛行基地を爆撃し道路、運輸網を破壞する、やがて國境に待機する無數の戰車は空軍の協力の下に國境の一角を突破するや一氣に敵の心臟部目掛けて突進する、その後に機械化部隊が續いて戰果を擴大する、やがて自動車で運ばれた步兵は專ら治安維持に當り、產業軍の技師達が續いて建設にとり掛る。ポーランド戰略は斯く行はれたのであるが、放送軍はこの第一線の戰車と共に進擊し、九月八日ワルソー市外に到着せる戰車隊が第一放送局を占領するや直ちにポーランド語を以てワルソー陷落の放送を開始したのであつた。之に對しポーランド側では市中にある第二放送局を使用してワルソー死守を聲明、これより約二週間に亙つて兩軍の放送戰が展開されたのである。

九月九日【ニューヨーク九日發同盟】九日ニューヨークに達したブダペスト電によ

れば、ワルソー又はその附近にあると稱される二ケ所の放送局が同一波長の電波を用ひて猛烈な宣傳戰を續けてゐる。即ち第一放送局がドイツ語訛りポーランド語で、

『ワルソーは今やドイツ軍の掌中に歸せんとしつゝあり、ヒトラー總統は全世界より祝賀の言葉を受けつゝある。市民は直ちに凡ゆる武器を地下室に仕舞込むべし、ドイツ軍隊の捜査の際違反を發見されたものは嚴罰に處すべし』

と放送すれば、第二放送局は立派なポーランド語で、

『全力を盡して我々の都ワルソーを守れ、ヒドラーは全世界より敵視されてゐる』

と繰返し、更に前者が、

『ワルソー市内銀行商店は閉鎖された。ポーランド兵は同國人が赤面する様な殘虐な行爲を行ひつゝあり、ドイツ軍によつてのみ秩序が回復されるであらう』

と呼びかければ、後者は、

『揑造説を信ずる勿れ、商店は昨日も本日も營業しつゝあり、食糧にも不足なし。非人道的な空爆にも拘らずポーランド兵とワルソー市民は最後まで祖國を守つてゐる』

とやり返し、二三分間置きに兩方共に宣傳をやつてゐる始末である。

同月同日【ロンドン九日發東日大毎特電】九日午前二時(日本時間午前十時)ワルソーからロンドンに入つたラヂオ放送はドイツ軍がワルソーに突入したことを繰返し報じ、ドイツ軍主力は十日朝を期して入城を行ふからワルソー市民は平靜を持するやう、また女子供は戸外に出ないやう警告した旨放送した。

同月十日【ブダペスト十日發東朝大朝特電】十日朝ポーランド軍當局はワルソーを死守して長期戰に入る用意であるとラヂオで放送した。

同月同日【ロンドン十一日發東朝大朝特電】十日夜十一時十五分ロンドンの聽取者はワルソーの短波放送局から放送されたラヂオ放送始まつて以來の最も劇的なニュースを聽取した。卽ちアナウンサーは、『今この放送局の周圍で激戰が行はれてゐます、窓から見るとドイツ軍の大部隊が刻々この放送局を目指して近づきつゝあります。然し我々はこの放送局より斷じて撤退致しません、息の續く限り放送を繼續する覺悟であります』と絕叫した。デイリー・メール紙の報ずるところによると、右の放送では、アナウンサ

ーの聲に交つて機關銃や重砲の發射される音が手に取るやうに聞え、次いでアナウンサーは悲壯な聲を張り上げて『ポーランド人は國の內にあると外にあるとを問はず悉く團結せよ、今や祖國は優勢なる敵軍のために蹂躙されつゝあり』と叫んだ。然しこの深夜の劇的な放送は間もなく歡喜に滿ちた放送と變つた。『ドイツ軍は退却の餘儀なきに至つた』と。

同月十三日【ロンドン十三日發東日大毎特電】ポーランド政府は十三日ワルソーからのラヂオ放送で次の如く述べた。『波蘭はドイツ空軍が何等軍事施設なき町々に對して組織的に爆擊を行ひつゝある點に文明諸國政府の注意を喚起する』

九月十五日【ニューヨーク發東日大毎特電】當地に達した情報によると、レンベルグ放送局は十五日午後二時、二千名のポーランド市民がドイツ軍の空爆で殺傷を負ひ、非戰鬪員の災害者は戰鬪員よりも多いと放送、注目を惹いてゐる。

同月十七日【ベルリン十七日發東日大毎特電】ドイツがワルソーのポーランド軍に送つた十七日のラヂオ・メッセージはドイツ軍最高司令部の署名を帶びたもので最初ド

イツ語で發信され更にポーランド語で繰返し、メッセージ接受をポーランド軍側から知らせる波長を指定せるものであるが、その內容は左の通り『ワルソー、ワルソー、この通信は聞えるか、貴方が要請せる會談に對する條件は次の通りである、ポーランド軍代表は外交代表を同件し特別の燭光を備へたる二臺の自動車に乘りプラガ＝ミンスク道路にあるドイツ前哨線にいたり、こゝにてドイツ代表の到着を待つべし、この際ポーランド軍はプラガ＝ミンスク道路の兩側各二千米の地域において完全なる休戰をなすべし』

同月同日【ニューヨーク十七日發同盟】ベルリン放送局のラヂオ放送によれば、ワルソーに居殘つて防戰中の市民は十七日朝ドイツ側の降伏勸告の最後の通牒に答へ、ドイツ軍の降伏條件折衝のため使者を派遣する旨通告した。

かくてドイツ軍の壓倒的勝利疑ひなしと見るや、これまで無氣味な沈默を守り續けてゐたソヴェート政府は初めてポーランド進駐を聲明した。

九月十七日【ロンドン十七日發東日大每特電】モロトフ蘇聯外相は十七日朝最初の放送を行つた、要旨次の通り。『ポーランド內白露及びウクライナの同胞に援助の手を差

しのべることはわれ〳〵の義務でなければならぬ。ソ聯政府はポーランド國民をその無能暴戾な支配下から解放し、その悲境から救ひ出すことを希望する。この二週間來の事態はポーランドが國家として全く破產してしまつてゐることを實證した。ポーランドはこの產業中心地のすべてを失ひ、ワルソーは最早ポーランドの首都ではなくなつた。今や何人もポーランドの存在を知るよしもなくなつた。かゝる狀態に對しソ聯は國防上斷じて晏如たり得ない、ソ聯は最後まで中立を守つてゐたが事態が斯くなる以上最早中立を守ることは出來ない、われ〳〵はウクライナ人と白露人の運命のために中立たることは出來ないからである。これゆゑ政府は軍最高司令部に對しわが赤軍をして國境を越えて西部ウクライナ人及び西部白露人の生命財產を保護せしめるやう命令を發した。わが忠良なる赤軍兵士諸君はあくまで民族解放の崇高なる鬪爭のために戰へ』」

同月十八日【ニューヨーク十八日發東日大每特電】ドイツよりの放送によれば獨ソ兩軍は十八日午後、すでにウィルノに達しリスアニア國境を距る僅か卅五キロの地點に到着したといはれる。

十九日ヒトラー總統は歡呼の裡にダンチヒに入り、ヨーロッパの舊秩序ヴュルサイユ體制の矛盾を鋭く指摘する。この矛盾から生じたポーランドの悲劇――ワルソーの聲はなほ弱々しく續く。

九月二十日【ブダペスト二十日發東朝大朝特電】ワルソーよりラヂオを以て發表されたコンミュニケに依れば、ワルソー市街はドイツ軍の猛擊に被害甚だしく、議事堂は完全に破壞され全市はいまや全く潰滅し、市民は飢餓に瀕してゐる。各公園内には夥しい數の死體が埋葬され、各所に野戰墓地が出現し、慘狀目を蔽はしめるものがある。次にコンミュニケは、

『我々は盟邦英國及び佛國を絕對的に信用し我々ワルソー市民は各々その義務を果しつつある』

と述べてゐる。なほワルソー市長スタルジンスキー氏は二十日悲痛な放送を行ひ『英佛よ、獨逸の野蠻行爲から我等の市街を、そして我等の無辜の民を救援すべく何時になったら來援してくれるのだ』と悲痛な訴へをなし、又他の放送者は『我等は絕對に降伏し

ない』と絶叫し、演說の間々にはポーランドの軍樂隊が勇壯なマーチを演奏した。

なほ市長の對英佛泣訴は終夜半時間每に英佛波各國語で朗讀された。

しかも賴みとする英佛軍は動く氣配もなく、冷やかに戰況を見守るのみ。九月廿七日、とぎれがちにも續いてゐたこの聲も遂に沈默を餘儀なくされ、やがてワルソー完全占據の報はベルリン市街を歡喜の聲に埋める。

茲に至るまでのドイツ放送軍の活躍がポーランド軍の士氣を沮喪せしめ敗北を早からしめたことは大なるものがあつた。そしてその成功は主としてハンス・グリーグラー氏の指導によるものと傳へられてゐる。グリーグラーは既に數年前ポーランド國境近くの放送局に局長として在任中、ポーランド放送の全面的調査を完了、その後宣傳省に入りラヂオ部長の要職に在つたが、ポーランド戰爭勃發直前にこの要職を辭し、戰端が開かれるや否や命ぜられて放送軍を率ゐて第一線と共に進擊、九月五日ポーランドのカトヴィッツ放送局を接收、續いてクラカウに進み、戰後はポーランド地區の中央放送局たるロズの局長として經營に當つたのであつた。——十月十八日ポーランドの放送は全くドイツ放送網の中に編入され、硝煙消

えやらぬポーランドの戰野には美しいドイツ音樂が夢のやうに流れるのであつた。

7 歌合戰と怪放送

既にポーランド戰線に於ける完勝の報も傳はり意氣軒昂ジークフリード線に待機のドイツ軍、鐵壁の城を恃みにマヂノ線に相對峙するフランス軍、正に一觸卽發の危機を孕む西部戰線、十月一日の夕刻、それまで聞えてゐたドイツの前線將士慰安のコンサート放送は突如中斷、素破と緊張するドイツ兵の耳に柔かく呼びかけるアナウンサーの聲、

『前線の皆樣へ——只今マヂノ要塞の內部からフランス陸軍の將兵達がスイス中繼でドイツ放送局を至急電話に呼び出し、フランス側からルシアン・ボアイエの「愛の語らひ」を放送するとの申込があり、ドイツ放送局では喜んでこの申込に應ずることになりました』

やがてスピーカーから流れる優しい歌聲、戰線に在ることも忘れて聽き入る一瞬、だがこの歌聲に魅せられて戰意までも失つたなら——、若しもドイツの兵士が明確な戰爭目的を與

へられて居なかつたら、祖國の運命を擔ふ重責を自覺して居なかつたら、この危險は充分に在り得たのであつた。戰線は膠着のまゝ長い退屈な冬籠りに向はんとしてゐる。

十月二十四日【ベルリン二十四日發同盟】西部戰線の空氣は極めて平靜で、晴れた月夜の晩に要塞の上にニョキ〳〵と徑口一米もある巨砲が現はれたと思ふと、それはマイクロホンで突然美しい音樂が聞えて來る。ドイツ軍も音樂ならお手のものと、ベートーヴェン、シューベルトで答へると、今度は佛軍はフランス一流の輕妙な流行歌で答へて來ると、いふ風に眞劍な音樂合戰が開始される。又水曜と日曜の晩にはドイツ放送局から定期的な陣地慰問放送が行はれる。甲兵士からその母親の誕生日の祝の音樂が送られると思ふと、乙上等兵の許婚者から西部戰線の彼に歌が送られるといつた譯で、要塞に蟄居した兵士達の間にも西部戰線の空氣を反映して一寸朗かな風景を見せてゐる。

この和やかな光景の裏に潛む怖るべき士氣弛緩の作用は、マヂノ・ラインを守るフランス兵の中に徐々に現れ初めたのである。

『ヒトラーは嘗つて「余は彼等の抗戰力を徐々に崩壞せしめるであらう」と言つた。果して

この長い冬の膠着期間にヒトラーは、それに成功したのだ。——當時、パリとロンドンの上流社會の人々は、軍隊慰問の計畫を次々と立てた。兵隊さんへの讀み物、兵隊さんへのラヂオ、兵隊さんへの娯樂、兵隊さんへの笑劇、兵隊さんへのスポーツ、兵隊さんへの藝術、兵隊さんへのお芝居、かくて、さる憤懣家の婆さんは、遂に、「兵隊さんへの戰爭」を提唱した。これは正しい。しかし、一般の評判はよくなかつた。——シュバリエは扉のところで振り向いて、英佛の兵士達に「諸君！お元氣で！」と、愛嬌を忘れない。愉快な罪の無い風景である。しかし、かうしたことはドイツの侵入に對する有効適切なる準備でも何でも無かつたのである。史上空前の危機に際し、祖國が過去の失策を清算し、防備と兵員訓練の爲に數週間乃至數ケ月の餘裕しか無いといふ時に、軍當局の不明のゆゑに兵士達は愚劣極まる生活を送つてゐたのである。——未來の自由と世界の運命が、兵士である彼等の抗戰力の上にかかつてゐることを、心に固く噛みしめてゐるべきはずなのに、彼等兵士の心を占めてゐたものは、戰線での日常生活の些細な爭ひごとばかりであつた。ヒトラーは、彼が嘗て言つた如く、英佛兵士の抗戰力を徐々に崩壞せしめてゐたのである。』

とアンドレ・モーロアは「フランス敗れたり」の中に書いてゐる。一見和やかな音樂合戰も亦マヂノ・ラインを崩す大なる力を持つてゐたのだ。

この獨佛の音樂合戰に引換へ、獨英の歌合戰は敵意に滿ちたものであつた。

やはり昭和十四年秋のことである。ロンドン放送局はドイツ向に最近の流行歌として、

「おいら、これからジーク線へ洗濯物ぶらさげに行くんだよ、おつ母ア何か汚れ物はあるまいか――」

と云つた調子の卑俗な歌を盛んに放送し、ジークフリード線のドイツ軍が攻勢に出ないことを揶揄したのであつた。初めの中は相手にしなかつたドイツも遂に堪りかねて十月四日ベルリン放送局はロンドンに向つて痛烈な反撃を開始、――イギリスの流行歌はその最初の一行から下劣極まるものであり、イギリス國民の趣味の惡さを表すものだ、第一そんな馬鹿げた歌を唱つて何になるのだ、本當に銃を執つて戰ふ兵士達は却つて情なく思ふだらう、ジーク線は不落の要塞であり、イギリスの放送局がお抱への歌手や擴聲器を總動員して下劣な歌を喚き立てたとて、ジーク線の石ころ一つさへ搖ぎはしない、ジーク線へぶら下げに來る迄

に洗濯物は又眞黑にされて了ふであらう——と酬いたのであつた。

以上の二つの音樂合戰を通じて見ても、イギリスとフランスの國民性の相違は明瞭に觀察し得ると思ふが、一方これに對應したドイツのやり方を見ると、「敵はイギリスでありフランスと戰ふ意志はない」といつたドイツの英佛離間工作が、實に巧みにこの兩國民の性格の相違を衝いたものであり、その方針がこの音樂合戰にも表現されてゐることが察しられるであらう。

このやうに戰線の膠着をみた昭和十四年秋から昭和十五年春までは、互に敵の國內攪亂或は士氣沮喪を狙つて祕術を盡す樣々の放送が行はれたのである。その二三を拾つて見ると、昭和十四年十月十日朝ドイツでは、ベルリン放送局と全く同一の波長で、恰も前日のヒトラー總統の對英佛和平勸告に應ずるが如く「英國內閣は十日總辭職を決行、西部戰線に於ては十日間の休戰が成立した」との放送が行はれ、之と相前後して「ヒトラー總統は十日午後四時國會を召集する」との噂が立ち、ドイツ民衆も和平來ると色めき立つたのであるが、ドイツ政府も放送局も事實無根と之を否定し、結局これはドイツ國內攪亂策と推定されたが、そ

の出所は不明といふことであつた。尚これに就きドイツ外務、宣傳兩省は、

十月十日【ベルリン十日發同盟】

『これはドイツ民衆を不安に陷れんが爲の英國のデマ宣傳であつて、これに次いで第二の怪宣傳が行はれるであらう。ドイツでは、左樣な放送を行つた事實はない。』と休戰の噂に憤慨し、頭からこれを否定してゐる。この噂は一般民衆のみでなく國防軍の參謀や、突擊隊の高官まで廣まり、家庭に電話をかけ、又國際記者團も慌てゝ至急報を打つと言つた騷ぎであつた。

口々に傳へられる處ではいづれもラヂオで放送されたと言ふのであるが、誰も直接ラヂオを聞いた者はなく、ドイツ政府は否定してゐる點から見ると、口から口へと計畫的デマが撒布されたものと見られる。ドイツ政府では英國の手先たる祕密機關の仕業であるとしてゐる。

とこのデマを打消してゐる。

外國放送の聽取を禁じたドイツにさへ何所ともなく忍び入る電波があるのであるから、何

の制限もないイギリスの受信器にはドイツの放送が堂々と訪問したのは當然であつた。

ポーランド戰が一段落を見た昭和十四年九月末、北海に出動せるイギリス艦隊に對しドイツ空軍は猛烈な空爆を浴せたのであつたが、その戰果に就いてドイツ放送局は、イギリスの誇る二萬二千噸の航空母艦アーク・ローヤル號は巨彈を受けて撃沈されたと述べ、イギリス向に「アーク・ローヤル號は何處にありや、イギリス國民よ、貴國の海軍省に問合はされては如何」と盛んに皮肉を飛ばしたため、イギリス當局も遂に默過し得ず、十月十五日之が否定の聲明を發表、

「ドイツ放送局は去る九月二十六日以來絶えずアーク・ローヤル號の撃沈を報道してゐる。依つてイギリス海軍省は同盟國をして右虚僞の聲明によつて惹起される虞れある如何なる疑念をも抱かせない爲に再びアーク・ローヤル號は沈沒もせずまた如何なる損害も蒙らざる事實を明確にするものである。」

この頃からドイツの排英放送攻撃は益々積極的になつて來た。

同月二十日【フランス前線發UP特電】ドイツ放送局は毎日數回、英語で放送するが、

内容は前線にある英國兵士や英國々民の士氣沮喪を目的とし、使用波長は本國放送局のそれに非常に近いため、英國からのニュースや音樂を求めてゐる英國軍隊のラヂオは邪魔され、ドイツの放送が勝を占めることになる。アクセントから察するとアナウンサーは英國で教育を受けたものか或は本當の英國人らしい。又そのアナウンサーは英當局に睨まれて國外に脫出した裏切者だとの疑ひもある。ドイツと異り英國はその軍隊がドイツの發表を聞くことを强制的に禁止しようとはしないので、一般兵士もまた、このドイツ放送を聞く自由を許されてゐる。

これが近頃我が國にも有名なホウ・ホウ卿の登場を語る記事である。彼の活躍は前線放送ばかりではなかつた。

誰しもラヂオを持つてゐるものはちよつと他局の放送を聞いて見たくなるものである。まして戰時にあつて敵國が一體何んなことを言つてゐるかといふことは非常に好奇心を唆るものである。そこを狙つてドイツ放送局は每晩九時にイギリス放送局の國內ニュースが終るのを待つてイギリス向英語ニュースを開始する。その電波に乘つてイギリスを訪れる聲は、落

着いた上品な純粋の英語で、イギリス人の喜びさうな洒落を交へ機智に富んだ話をする。これが先づイギリス人の耳を捉へた。しかも今聽いたイギリスのニュースと此のドイツの英語ニュースとは當然喰違ひがあるとなると、一體どちらが本當かと一應の興味を持つ。翌日知人に逢ふと「昨日のドイツ側の放送では…」と話がはずむ。斯くてこの聲は次第にイギリス人の人氣の中心となり、彼はイギリスの貴族の出であるとか、イギリスのファシスト黨の一員だつたとか、その人物生立が種々取沙汰され、何時の間にかホウ・ホウ卿と仇名され、流行歌に唱はれ劇に仕組まれるといふ騷ぎ、遂には「あれは私の夫です」と言ふ御婦人まで現れたのであつた。

それでも最初の内はそのニュースに信用があつた譯ではなくたゞ面白半分に聽かれてゐただけであつたが、恰もその冬、イギリスが盛んに勝利を宣傳してゐたフィンランドのソヴュートに對する降伏を、ホウ・ホウ卿は逸早く發表し、フィンランドの優勢を信じ切つてゐたイギリス人達をアツと驚かせたのであつた。

また彼の發表したイギリス商船の撃沈は後にイギリス政府の確認するところとなり、から

なると彼の放送は全くイギリス人に氣懸りなものとなり、そのニュースは却つてイギリスのニュースより信用を持たれる様にさへなつたのであつた。流石にイギリス當局も之には手を燒いたが、さりとてこれ迄になつては聽取を禁ずることは却つて逆効果となり、またイギリスの宣傳敗亡を裏書する樣なものであり、手を束ねて放置する他なかつた。やがて北歐白蘭戰からフランス壞滅に至るまで彼の活躍は全くイギリス人の神經を苛々させ乍らもその耳を確り捉へて離さなかつたのである。

或時は暗號らしい符號を挾んでイギリス國内に潛入してゐるスパイと連絡をとるかの如くまたドイツの壓倒的な勝利を傳へる一方英佛軍の慘敗を語り、落下傘部隊や第五列の恐怖を傳へたかと思ふとドイツ空軍がパラシュートを祕かに落して恰も落下傘兵が潛入したかに思はせる。またイギリス軍の捕虜があればその名前や故鄕等を一日に三名位づつ發表する。これは捕虜になることを恥としない未練がましいヨーロッパ人の出征家族には聞き逃すことは出來ない。さうかと思ふと皮肉たつぷりにイギリスの支配階級と勞働者の間を離間し、また英佛の間を裂かうと實に痛い所を衝く。チェンバレンを嘲り、チャーチルを嗤ふ等々、凡ゆ

る問題を取上げて巧みに人心攪亂に偉大な成果を擧げ來つたのであつた。

この他にイギリスの放送を逆に使つて効果を擧げた話がある。それはチャーチルが大衆を前にして演說し、これを全國に中繼放送したのであるが、その時聽衆の中に居た反戰派に猛烈に野次られ、辯舌を以て鳴るチャーチルも遂に立往生するといふ場面を生じた。この放送をドイツはすかさず受信錄音し、翌日から當分の間イギリスに向つて繰返しこの場面を放送し、民衆の戰を好まざる狀況を指摘、國內輿論の分裂に拍車をかけたのであつた。

またホウ・ホウ卿が正確なニュースを以てイギリスの人心を不安ならしめる一方、新B・B・C(新英國放送協會)と稱する正體不明の怪電波は頻にイギリス政府を攻擊し、所謂デマ放送を飛ばして國民に衝動を與へた。昭和十五年二月二十五日第一回の放送に於て新B・B・Cは、イギリスの戰爭目的を痛烈に非難し反政府の氣焰をあげ、更に翌日はアイルランドの各所に反英獨立の暴動が起つたと報道、なほ北アイルランドの首都ベルファストの街路には新放送局設置の落書が到る處に見られ、イギリス官憲はこの新B・B・Cの所在並に正體を突止めんと必死の努力を拂つたが空しく、その後も每夜怪放送が續けられ、八月六日に

はドイツ軍は必ず上陸すると報じ、その前に國民革命によつてチャーチル內閣を倒し戰爭を避けよと述べてゐる。

またイギリスがドイツ放送局のニュースを懸命に聽いてゐるのを知つてであらう、八月中旬にはドイツは自國の國內放送に次の樣な手を用ひた。

【ロンドン十六日發同盟】獨空軍の集團爆擊は日を逐うて大規模となり愈〻危機切迫を思はせるが、獨軍從來の戰法からみて直に都市爆擊に出ることは先づないと見てロンドン市民は案外落着いてゐる。

政府はこの樂觀氣分を戒めるのに躍起となつてゐるが、一方對策に苦慮してゐるのは獨の神經戰術だ。數日前の落下傘落下事件はどうやら獨側が第五部隊に過敏となつて居る英國民を驚かすためのトリックと判明したが、何時もトリックと思つて居るとその中に本物が混つて來るかも知れないし、また十五日夜はブレーメンからドイツ語ニュース放送の合間に謎の怪放送が聽取され話題になつてゐる。

卽ち十六日のタイムス紙報道によると、怪放送はニュースと同波長ではあるが別人の

聲で突然ニュースを中斷し「こちらはハルマン五五、明日の日の出は午前六時、更に七番に注意せよ」との奇怪な言葉が入り、その後のニュースの時間にも繰返し「四九引續き七番に注意せよ、明日の日の出は午前六時、空模樣に鑑み暗號廿四に注意せよ」との意味ありげな放送が又々行はれたと云ふのだ。

これは今ドイツが國外各地に放つてゐるスパイに對し上陸作戰開始の時機に就て連絡の暗號を發したとも解されるが、態々英國側にも聞える樣に放送したとすればこれも英國を惑はせる「神經戰爭のあの手この手」かも知れない。

或時はイギリス放送協會に空軍省の名前で電話をかけた者があり、放送局が眞に受けてその指令を放送した所が空軍省ではそんな指令を發した事實がなく、大問題となり、イギリス上院では「英國放送局員でドイツ婦人と結婚してゐる者があるが、この樣な者を放送の任務に當らしておくことは防諜の見地からみて大問題である。よろしく免職すべし」との議論まで飛出し、放送局は周章狼狽したといふやうなこともあつた。これ等は何れもドイツの巧みな潜行運動であらうことは當然想像せられるであらう。

ドイツの用ひた怪電波、怪放送はこの他にも種々あり、他國の放送時間の切目を狙つて同波長で同國語で、恰もその國の放送の如くに装つて放送すること等は全く易々とやつてのけたのである。バルカン邊りの小國はドイツ電波の攻撃を怖れて續々外國放送聽取禁止令を發したが、この禁止令の發案者であるドイツは、他國の禁止令の裏を潜る術をちやんと用意してゐたのである。

事變直前我國に於ても「南京の鶯」と言はれた南京の女アナウンサーの聲を聽きたさに毎晩福岡局と同一波長にダイヤルを廻して、そこへ聞えて來る南京の放送を樂しんだ人も隨分居るであらう。幸ひこの鶯孃はホウ・ホウ卿の如き巧みな日本語の持主でもなかつたし、また當時は支那語講座などと言ふものは無かつたゝめ、この聲に影響される所は殆ど無くて濟んだが、しかし事變開始されるやこの南京の戰勝デマ放送が、遂に通州事件を招來することとなり、我が同胞の尊い血を流したことを忘れてはならない。そして一方に敵の電波を防禦すると同時に、更に敵國を攻める電波を、聽かせる放送を考へねばならぬ。今や東洋の空は各國の電波が入亂れて放送戰は酣である。そして日本が一つの怪電波を若し最も巧妙に用ひ

ることが出來たら、それを以てイギリスの死命を制し得るといふことを玆に確言しよう。
——イギリスの全生命が東洋の植民地の上に賭けられてゐることを忘れてはいけない。

8 北歐、白蘭戰線

昭和十五年春、ソヴェート、フィンランドの戰も終りを告げ、西部戰線も依然として異狀なく、獨りルーズベルトのみ喋々として厚顏にも世界平和を語り、表面は如何にも平和な春を迎へたかの如くであつたが、この間にも現狀維持諸國は崩れ行く地盤を立直さんと必死の努力をしてゐたのである。新秩序國家の攻擊を一日でも延伸せしめること、それが彼等の唯一の逃れ道であつた。從つて日獨伊の離間こそが最大の目的であつた。

三月十六日【ニューヨーク東日大每特電】ルーズベルト米大統領は十六日ウィルヘルミナ・オランダ女王その他外交官、宗教家と共に國際放送に立ち、左の如く世界の平和を强調した。

『世界は今日各國民が同胞感を持ち少數民族國家の國境を尊重し宗教、學問の自由を認める眞の平和の道義的基礎を希求してゐる。しかして各國民が同胞感を失へば眞の平和なく武力によつて支配される。人類の生活が壓迫、飢餓、慘虐に滿ちたものを意味するならば平和は恒久的のものではあり得ない。また少數民族國家が强大な隣國の脅威にさらされてゐる時には健全な平和はなく、人々に探究の自由を與へざる限り智的平和はなく、また信仰の自由を與へぬ時、正義の平和はあり得ないのである。』

三月三十日【ロンドン三十日發同盟】チャーチル海相は三十日午後ラヂオ演說を行ひ、戰爭の激化は當然豫期したところであり、英佛の戰爭能力は遙かにドイツを凌いでゐると國民を激勵、併せて日伊ソ聯中立諸國に對する英國の態度を明かにし、日伊に對しては勿論のことソ聯とも戰端を開かんとする如き政策は持ち合せてゐない。ソ聯にしても舊式帝國主義的野望から進んでドイツに加擔をしない限り戰爭に捲込まれる必要はないであらう、とて注目を惹いた。

また後にチャーチル英首相は、今となつては怖るゝに足らぬが、この四月頃に日獨伊三國

同盟が結ばれてゐたらイギリスは壊滅してゐたかも知れぬと述べてゐる。そのことを以てしてもイギリスのこの頃の外交が如何に必死になつて三國同盟を妨害せんとして暗躍してゐたかが察しられるであらう。時に紀元二千六百年の佳き年を迎へた我國に在つては米内內閣有田外相は自主外交を以て事變處理に邁進の決意を表明、ヨーロッパ戰爭には嚴正中立を宣言。かくてイギリスはこの間隙に乘じて孤立狀態に陷つたドイツの封鎖陣を布かんとする。

正にドイツの危機。

玆にヒトラー總統は斷乎「北進」の命令を下し、電擊の兵を北歐に進めたのであつた。

四月八日【ロンドン八日發讀賣特電】英佛兩國は北海方面における對獨海上封鎖强化のため旣にスウェーデン、ノルウェー兩國政府に對し强硬覺書を手交しその成行を注目されてゐた折柄、果然八日午前に至り英佛兩國政府はラヂオ放送により共同宣言を發し、ドイツがノルウェーより原料資源を獲得し、又ドイツ船舶のノルウェー領海通過を阻止するために必要な一切の具體的措置に關する權利を留保し、且つその手段として八日早曉を期してノルウェー領海に機械水雷を敷設せる旨を闡明した。

四月九日【ベルリン九日發都特電】獨政府は九日宣傳相ゲッベルス氏の名を以てデンマーク、ノルウェー國民に對する大要左の如き聲明を放送した。

『英佛兩國はソ芬戰爭に際しフィンランド救援を名としてノルウェー及びデンマークに對し兵力及び武器を送付しつゝあつたが、ソ芬間和平締結後に至るも中止の模樣がないため獨政府は自衞上兩國の重要なる港及び都市を一時占據することに決定した。これは一時的便法であつてドイツ政府はデンマーク、ノルウェー兩國の獨立及び領土を毀損する意志なく平和克服後は直ちに撤兵するものである。

四月九日【ベルリン九日發同盟】九日午後二時のドイツのラヂオ放送によればノルウェー政府は九日ドイツ政府の提示したドイツ軍の對諸進駐を承認、反抗的措置に出ないことを期待するとの通告を受諾したといはれる。

四月九日【ニューヨーク發同盟至急報】NBC放送局は九日ドイツ軍が午前四時半デンマークに侵入し、目下コペンハーゲンに向つて急進中であると放送した。

四月九日【ロンドン九日發同盟】ドイツ海運ラヂオの放送によれば、ドイツは九日

朝對丁、諸軍事行動を起すと共にスウェーデンの重要港灣全部に機雷を敷設した。

四月九日【ストックホルム九日發同盟】ドイツ軍のノルウェー侵入に伴ふ戰火の北歐波及に鑑み、スウェーデン政府は九日午後ラヂオを通じ總動員令を布告した。

四月九日【パリ九日發同盟】パリで傍受したオスロ放送によれば、ノルウェー政府は八日夜來緊急閣議を開催、愼重協議した結果九日總動員令を發布した。

四月九日【ベルリン九日發東日大每特電】久し振りの快晴の九日朝五時十分（日本時間午後一時十分）ベルリンのラヂオは「ドイツ軍は堂々デンマーク國境を越えて進入、陸海空軍相呼應してコペンハーゲン及び諸都市を占領し、すでに一部はノルウェーに上陸した」と矢繼早に報ずるとその度每に町は跳ね返るやうだ。歡聲に沸き立つ開戰以來の大騷ぎで、ラヂオは全部かけつ放しだ。アナウンサーの聲も緊張にふるへてゐる。ウィルヘルム街の總統官邸には、軍の自動車があわたゞしく出入して見物人が雲集してゐる。新聞賣子は聲を嗄らして赤刷りの號外を賣つてゐる。またそれが飛ぶやうに賣れて行く。「總統はうまくやつた」「ドイツはきつと勝つぞ」とベルリン子は凄い鼻息だ。

四月九日【ニューヨーク九日發東朝大朝特電】ベルリン放送局の短波放送によれば獨政府はデンマトク、ノルウェー兩國占領を左の如く發表した。デンマーク、ノルウェー兩國は遂にドイツの保護下に置かれた。ノルウェー西海岸の凡ゆる重要據點は獨軍の占領下に歸したが、これはスカゲラック全海峽が今後英國の攻撃より免れること、全ノルウェー領がドイツの保護下に歸したことを意味する。

四月九日【ストックホルム九日發同盟】キスリング新首相は組閣と同時にラヂオを以てノルウェー國民に對しドイツ軍に對する抵抗を卽時停止する樣命令した。親獨內閣の組織につき國王ハーコン七世は相當不滿を懷いてゐる模樣だが、結局新事態を容認されることゝならう。

四月十三日【ニューヨーク東朝大朝特電十三日發】ストックホルムからの情報によれば、オスロにあるドイツ軍司令官ファルケンホルスト將軍は十三日ラヂオでノルウェー皇帝ハーコン七世並にノルウェー國民に對し通告を發し、ドイツ軍に抵抗し、或はノルウェー皇帝の布告せる動員令に應じたるものは死刑に處する旨宣言した。

忽然としてノルウェーの首府オスローに現れたドイツ軍は、軍樂隊を先頭に和氣靄々市中を行進する。この新事態にも拘らずオスローのラヂオは何等驚愕の色もなく、寧ろ既にこの事態を豫知し準備してゐたかの如くドイツ軍歡迎のプログラムを送る、その日のうちに新內閣の聲明も放送される。首都オスローは世界の啞然たる中に易々としてドイツ軍の手に歸したのであつた。

この北歐戰が開始されるやニューヨークに達する情報は總てイギリス敗戰の報ばかりであつた。ベルリン發はもとより、ロンドン發もストックホルム發も必要以上にイギリスの敗戰を誇張するが如くであつた。何故か、答は簡單である。これをきつかけにアメリカを參戰せしめんとするイギリスの苦肉の策であつたのである。――イギリス敗れんか、アメリカ危し――だがアメリカは起たなかつた、否々起てなかつたのである。宛然人種展覽會の如きその國內、各州の分立狀態、勞資の對立、婦人の反戰運動、中南米の不安等々、それにも增して怖しい日本の國民的エネルギー。天津租界問題、淺間丸事件に見られた國民の正しい方向とその激怒、これこそアメリカ太平洋艦隊を釘付けにした最大の力であつた。

アメリカ起ち得ず——この見透しはヒトラー總統をして更に西部戰線、オランダ國境を突破せしめる。

五月十日ヒトラー總統は全國民に向ひ、

「今や決定的な時機は來つた、ドイツ民族一千年の運命この一戰に決す。我等は子孫の幸福のため此の歷史的な瞬間を最も勇敢に戰ひとらん」

と放送。この時既にオランダ、ベルギー國境を突破せるドイツ軍は一路ハーグに向つて怒濤の如き進擊を開始、尙諸所に落下傘部隊を降下せしめ重要施設を奇襲、オランダ軍は爲す所を知らず、十三日早くも政府をロンドンに移し、十五日には首府ハーグ陷落、ドイツ軍は文字通に鎧袖一觸オランダを蹴落してベルギー戰線に進出、廿八日即ち開戰以來僅か十八日間にしてベルギー軍をも降伏せしめたのであつた。

この驚異的な電擊戰の成功には種々の新戰法が與つて力あつたことは勿論であるが、ラヂオも亦その一役を買つてゐるのである。即ちドイツではオランダ・ベルギー戰の餘程前から兩國の國民にラヂオを通して呼掛けてゐたのである。如何にしてドイツのラヂオを兩國民に

聽かせたか、それは割込放送といつて、オランダ或はベルギーの放送の休止時間を狙つてその局と同一波長で同國語の放送をする。それ故聽取者の方では自國の放送だとばかり思つて聽いてゐるのである。併しこれを成功せしめるにはその國のプログラムの周到なる硏究の必要なことは勿論、ドイツ側から送る內容を餘程注意しなければ直ちにドイツの宣傳放送だといふことがわかつて了ふわけである。

ではドイツはどういふことを放送したかといふと、空襲の偉力とゲシュタポ（ドイツ祕密警察）の殘虐さを宣傳したのである。これまでの自由主義國家側の宣傳といへば大抵敵軍の殘虐性を誇張し、自己の軍隊の正義を吹聽したものだつたが、この場合のドイツは正にその逆を行つたのである。この爲にオランダ、ベルギーの國民はすつかり之を信じてしまつた。その結果が開戰後にどうなつたか――玆にアンドレ・モーロアの言葉を借りよう。

『ベルギーの村々では、娘達はなほも戶口の階段に立つてゐたが、彼女達は花は持たずに、不安さうに空ばかり眺めてゐる。しかし、ドイツの飛行機が與へる損害は大したものではなかつた。村のあちこちで、二つか三つの家が破壞されてゐるくらゐのものであつた。ドイツ

の飛行機が狙ふところは、何所の村へ行つてみても、きまつて踏切だとか、そこの番人の家だとかいつたものばかりである。廣い平野では、いくつかの大きな建物が燒けてゐるのを見た。さうした建物には、修道院とか教會などもあつた。しかし、結局受けた損害の程度といふものは、大したものではないと私は考へた。この考へは、しかし、非常なる誤りであつた。かうした爆撃の目的といふものは、一般の人々を恐怖に陥入れることにあつたのだ。この點、ドイツは確かに成功した。その後、われ〳〵は到るところの村々で、ドイツ人やベルギー人の第五列を發見したのである。

かれら第五列は、最初の爆彈が投下されるや否や住民達に向つて、

「いまのうちに避難せよ！　この村は間もなく大爆撃により破壊されるであらう。飛行機の後から來るものは、ゲシュタポである。ゲシュタポがポーランド人を如何に取扱つたかを、われ〳〵はよく知つてゐるはずではないか！」

住民は、それが第五列と知らずして、つい耳を傾ける。この恐慌は忽ち村落全體に傳染する。村長、教區牧師、町役人、みんな一緒になつて村を立ち退く。それは驚くべき光景であ

つた。道路といふ道路は避難民の群で溢れてゐる。——中略——

潰走といふことほど傳染し易いものはない。フランスの前線に源を發したこの潮のやうにおし寄せる避難民が、他の町まで來ると、忽ちそれは傳染して、更に大きな群となつて潰走する。われ〳〵の機械化兵團は、あのやうに見事な編隊で第一日を出發したものだが、間も無く、この潰走する避難民に全く足搔きがとれなくなつた。

前大戰にアミアンの線が破れた時ですら、このやうな潰亂狀態は見られなかつた。何故であらう？　それは一九一四年よりも恐怖が遙かに增大してゐたからである。綿密に繰りひろげられたに相違ない、あの第五列の恐怖をそゝる話が、すべての人々を燃えたゝせ、その土地に深い愛着を持つ人までが、測り知れない怖しさ、危險さから遁れ去らうとしたからである。前大戰には、何の情報も知らされず、泰然自若と構へてゐた農夫たちの間に、今度はラヂオといふものが、驚くべきニュースを撒きちらしたからである。——」

ドイツ機械化兵團はこの潰走する避難民の後を追つて最少の犧牲を以て最大の効果を擧げ

たのであつた。ドイツ軍の新兵器が驚異と好奇を以て誇大に傳へられたのもこの頃であつた。

五月十日　國境突破
〃十三日　オランダ政府ロンドンへ移る
〃十五日　ハーグ陥落
〃十七日　ベルギー・フランス國境のマヂノライン突破
〃廿二日　ドーバ海峡海岸線に到達

この猛進撃を前にして流石のイギリスも、搾取と僞瞞の上に打ち樹てた自己の世界史が崩壞し行く運命を感じたのであらう、五月廿四日「大英帝國記念日」に際し皇帝は再びマイクの前に立ち、

「――今やわれ〳〵は決定的鬪爭に直面するに至つた。余は率直に全國民に語らうと思ふ。蓋しこの試煉の時に際會して曖昧な言を弄することは全國民の欲しないところであらうと信ずるからである。何人も誤解があつてはならぬ。われ〳〵の敵が求めてゐるものは領土的征服に止まらず、大英帝國及びその據つて立つ一切のものの完全且つ最後的な征服を而してその後

には全世界の征服を求めてゐるのである。もし彼等の右の如き意志が實現せんか、彼等は從來既に示した如きありとあらゆる惡意と殘忍とを徹底的に遂行するであらう。かくも恐るべき計畫が人間の心中に起り得るとはわれ〴〵の容易に信じ得ないところであるが、しかし疑ふ時は既に疾くに過ぎ去つた。われ〴〵大英帝國の全國民にとつては、また洞察力と善意を有する全世界の人士にとつては今や問題は明らかである、それはわれ〴〵全體の死活の問題である今次戰爭の敗北は再び回復し得るが如き國力の一時的失墜を意味するものではない。それは現在われ〴〵の知る世界の破滅を、その廢墟の上に暗雲の覆ひ被さることを意味するものである。余は今日こゝで全國民に對しこの帝國の新たなる識見を語るのである――」

と放送、今次大戰の重大意義を强調したのであつた。

しかもドイツ軍の進擊は益々急にして五月二十八日遂にベルギー軍は皇帝の名によつて無條件降伏を發表、英佛軍の頽勢はもはや覆ふべくもなかつた。レイノー佛首相はこの日全國民に、

「ベルギー皇帝レオポール三世はベルギー政府閣僚の進言を斥けて遂に二十八日午前四時以

後、對獨抗戰を斷念することに決し、玆にベルギー全軍はドイツ軍に降伏した。かくて二十八日午前四時以後は最早ベルギー軍を期待し得ず、英佛兩軍のみが踏止つて對獨抗戰を飽くまで繼續する決意である」

と告げたが、ベルギー降伏の報がフランス軍並に國民に與へた失望は啻ならぬものがあつた。この衝動の最中にあるフランス軍に對してドイツ放送局は機を逸せず降伏勸告の放送を連續送出し、又一方イギリスの利益のためにフランスが踊らされてゐるこの戰ひがフランス國民にとつて全く意味のないことであると述べ立てる。

ダンケルクに包圍殲滅戰を展開しイギリス本土上陸作戰敢行の氣配を見せ、一方マヂノ線を突破せる部隊はパリ進軍を目指すが如きドイツ軍の態勢とこの放送によつて、フランス政府の方針、國民の輿論は全く分裂混亂狀態に陷たのであつた。

しかもドイツ前線放送軍は餘裕綽々、戰火消えやらぬ白蘭戰線に日、伊、米等の特派員、特派アナウンサーを招いて生々しい電擊の模樣を實況放送せしめるのであつた。

9 パリ進軍

――「イギリス軍だつて？」と、ドイツのラヂオは優しい口調で言ふ。「イギリス軍はたつたひとつの軍事行動しか知らないんだ。――撤退といふことしか知らないんだ。諸君フランス人は、間も無く、イギリスの新聞に勝ち誇つたコムミュニケが掲載されるのを見るだらう。曰く、大英帝國海軍は、英軍の最後の一兵までも、秩序整然、一滴の血も流すこと無く、大成功裡に撤退を完了せしめたり――」（モーロア）

このドイツのフランス向宣傳放送は全く見事に適中した。

六月二日イーデン陸相はイギリスの大陸派遣軍の五分の四が撤退に成功したと誇らしげに放送、玆にフランスは遂にチェコ、ポーランド、ノルウェー、オランダ、ベルギー等の諸國と同樣、イギリス防衛の犧牲として立てられ、そしてそのイギリスから見放なされて行く悲慘な運命を辿るのである。冷酷なるイギリス！

しかもそのイギリスは、嘗てイギリスのアフリカ政策の犠牲となつてイタリアに抗し、敗れ去つたエチオピアの皇帝を、自國に保護することによつてひとかどの正義面をして世界の安價なる同情を集め、且つは再びエチオピアに工作する際の道具とした如く、フランスの敗れ去らんとする今、オランダ女皇をして嘗てのエチオピア皇帝の役割を演ぜしめつゝ、フランスに代るイギリスの防塞アメリカを、そのアメリカの輿論を握るアメリカ女性の安價なる同情を買ふことによつて、起たしめんと畫策するのであつた。

ロンドン放送局のマイクに向つたオランダ女皇は、ドイツの暴虐を呪ひ「國敗ると雖もやがて再起の日の來らん迄オランダ民族は光榮あるオランダ民族精神を忘却せざる樣――」と聲涙共に下る放送を行つたのである。

この放送と言ひ、先のアセニア號事件と言ひ、或は最近ではカナダに避難せるイギリスの小學兒童と母國にあるその母との可憐な會話放送、これらの目的とするところはアメリカ女性の心を動かすことにあつたのである。何故に斯くアメリカの女性を重視するかと言へば、アメリカの私有財産の大半は女性の所有であり、之を守らんが爲に女性は常に共同戰線を張

つて輿論を起し、夫を動かし、政治を左右するに至るのである。
イギリスのアメリカ女性に對するこの樣な苦心にも拘らず、今日なほルーズベルトが對獨或は對日强硬論を口にする度毎に、議會を取卷き或は大統領官邸の周圍に、あられもない女性の參戰反對の大示威運動が展開されてゐる狀況である。
フランスの危機をよそに冷然と大陸派遣軍の撤退成功を誇るイギリス、反戰デモ頻りなるアメリカ、この樣な自由主義國家群の分裂狀態に反し、ドイツとの緊密なる聯携の下に簇戰的中立を持しつゝあつたイタリアは、ドイツのパリ進軍と相呼應して六月十日參戰を宣言、
六月十日【ローマ發同盟至急報】ムソリーニ首相は十日午後六時（日本時間十一日午前二時）ラヂオを通じイタリアの參戰を中外に宣明した。要旨次の通り。
イタリアは英佛にヒトラー總統の和平提案を受諾せしめんと幾度か平和への努力を重ねたが、今はすべて無效に歸した。吾々は吾々を窒息せしめんとする地中海の鐵鎖を破らんとするのだ。イタリア國王エマヌエル三世は常にイタリアが盟邦ドイツと協力せんことを主張してをられた。

この放送は直接ベルリンへ送られ、外相官邸のスピーカーの前にはドイツ主腦部の人達がムソリーニ首相の一言一句をも聞き逃すまいと緊張した顔を並べ、道行く人々は早くもイタリア參戰と知つて歡喜に溢れる。

迫り來る最後の日を前に人影も絕えたパリの街にはレイノー首相の虛ろな聲が徒らに流れる。

六月十日【パリ發同盟至急報】レイノー首相はイタリー參戰の報に接するや直ちにラヂオを通じフランス全國民に對し、フランスは十一日午前零時を期しイタリアと戰爭狀態に入る旨宣言した。

六月十日【パリ發同盟】レイノー佛首相はイタリー參戰の報に接するや直ちにラヂオを通じ對伊戰爭狀態を宣言、フランス全國民に對し左の如き激勵の辭を送つた。

「フランス軍が全線に亘り徐々に後退しつゝある時、ムソリーニ首相は突如フランスに對し宣戰を布告するの途を採つた。チアノ外相は十日ポンセ大使に對し、イタリーは參戰によつて獨伊樞軸の義務を履行するものであると語つた。フランスはこれに對しいふ

べき言葉を持たない。しかしフランス國民よ、英佛聯合軍は地中海において世界のいづれの地域においてよりも强力であることを知られたい。フランスは今痛手を負うてゐることは事實である。しかし未だ斷じて敗けてゐるのではない。防戰してゐるのだ。地中海におけるフランスの兵力は、一言でいへばフランスは決して征服されない。フランスは絕對に滅亡せぬといふ一言に盡きる。」

刻々に近づくドイツ軍の砲聲、今や總ての望みは絕たれんとして、唯々奇蹟に縋らんのみ

——

六月十二日【パリ發同盟】「米國遂にイタリーに宣戰す」と十二日午前六時當地のラヂオは大眞面目に放送した。こと程左樣に當地の不安は深刻になつて各種のデマが亂れ飛んでゐる。報道機關は一切機能を停止して、ラヂオ放送が僅か乍ら行はれてゐるのみだから、こんなデマ放送も市民の一喜一憂を買つて、忽ち米國參戰の聲は街々を傳はる。

六月十三日【パリ原田參事官公電、六月十三日讀賣】市內の電話連絡困難となる。

ラヂオもフランス全土にわたつて停止された。われ〳〵の通信もいつ不可能となるかはかり難し。

六月十四日【ツール發同盟】祖國の悲運を双肩に擔ふレイノー首相は去る十日ルーズヴェルト大統領にメッセーヂを送り、米國の對佛援助を懇請したが、十三日夜ラヂオを通じ「再度の而して最後の訴へ」をルーズヴェルト大統領に送り、事態の切迫に鑑み急遽フランスを援助されたいと重ねて懇請した。

その最後の懇願も空しく、たゞアメリカはユダヤ人の財産たるパリ市の戰火による壊滅を怖れて、フランス政府をして無防禦都市たることを宣言せしめんとする。

パリ陷落！　ベルリンの興奮！

六月十四日【六月十五日報知】「佛軍のパリ防衛の企圖は挫折した。パリは無防禦都市と宣言された。やがて我軍は入城を開始するであらう。」

勝利の第一報は正午ドイツ軍司令部から發表された。市民は誰も彼も食事を捨てゝ街頭に飛び出した。午後一時、ラヂオは吼えた。

わが軍はパリに入城せり！

アナウンサーは幾十度も繰返した。各寺院の鐘は一齊に十五分間に亘つて鳴り響いた。興奮の津浪は忽ち巨大な火焰の如く全市に廣がつた。

六月十四日拂曉、歩兵部隊を先頭に粛々パリ入城のドイツ軍、その後尾が未だ凱旋門に到達せぬ頃、放送陣は早くも活躍を開始、正午過ぎ既にパリ第二放送局はドイツ語の放送を開始、ドイツ古典音樂は喜びと悲しみの複雜な感情の交錯するパリの空を柔かく包む——

六月十七日フランス降伏を發表、

かくてドイツは休戰協定第十四條に、

「フランス領内にあるすべての放送局の放送は即時これを禁止す、非占領區域におけるラヂオ放送の再開は後に定むる別の許可を要す」

と規定、ヨーロッパにアメリカに、アジアにアフリカに飛交つてゐたフランス電波は停止し、世界放送戰線にも劃期的な變革の時代を齎したのであつた。

二　世界放送戰

1　新秩序文化

汚辱の近世史！　植民地の掠奪と搾取の上に立つイギリスの世界支配、しかもイギリスはその近世史を維持せんとして更に悪業を重ねる。嘗て佛敎の大文化を持ち世界の寳庫と言はれた印度に住む人々は、今や土地を奪はれ傳統を絶たれ、奴隷狀態に陷れられ飢に斃れる、極く少數の上層階級の子弟のみがイギリスの建てた學校でイギリス的學問を詰込まれ、イギリス擁護の走狗となる。數萬人の血を絞つて得た巨額の富の數萬分の一にも當らぬ金を以て堂々たる病院が、僅か乍らこれ見よがしに建てられる。そして言ふ、イギリスは印度に文化を與へた、と。

イギリスが近世世界に何を與へたか。文化を與へられ學問を與へられたと言ふ人が居るな

ら自らの身を顧みよ。その文化は學問は誰の爲に何の爲に役立つか、太平洋は白人が發見したと言ひ、アメリカ大陸も南洋の諸島も白人が發見したと敎へる歷史、イギリスが自分に都合のいゝ現狀を維持せんが爲に作つた國際聯盟や國際法が絕對の權威や掟であつたり、イギリスの定めた國境線を一生懸命諳記することが地理であつたり、徒らに數式を捻くつたり理論を述べることだけで何ものをも生み出さず何にも役に立たぬことが學者の本分であり、學問のための學問と呼ばれ眞理と言はれる。戰爭は野蠻だと敎へ文化を破壞すると唱へる。

成程イギリスの立場に立ち、この矛盾に滿ちた世界秩序を飽くまでも維持せんとする爲には、これ以上の眞理も無ければ、正しい學問も無く、またその樣な現狀を打破せんとする戰爭は全く文化の破壞でもあらう。だが英米の鐵鎖の下に喘ぐ幾億の有色民族を救出して、再び古の如く輝ける太陽文化の下に育まんとするものにとつて、また之と手を携へてユダヤ的金權獨裁より世界を救ひ共々に世界新秩序を打樹てんとするものにとつては、その樣な戰ひこそが次の新しい時代を生み創つて行く最も文化的な行爲であり、舊文化の絕對的否定（戰爭）こそ同時に新文化創造であることを明かに知らねばならぬ。

見よ日本の滿洲事變、支那事變を通しての國際聯盟脱退、英米的世界の否定、植民地解放の聖戰を、そしてこの日本の堂々たる世界新秩序建設の宣言に相應じて起つたドイツ、イタリアの建設戰を。

ナチス・ドイツがユダヤ人を放逐し、ユダヤ的文化を否定した時、人々はドイツ文化の低下を豫期した、だが數年後にその人々はドイツの新兵器の出現に腰を拔かした。しかしこれは科學のみに限つたことではなかつた。凡ゆる領域から英米的な、ユダヤ的な、現狀維持的なものを排除し、眞にドイツ的な、ドイツ民族の幸福のために戰ふ、明日のドイツを建設し得るもののみを求め培つて、全く新しい力强いドイツ文化を創り上げて行かんとしたのである。このためにヒトラー總統は宣傳省文化院に命じて各領域の綿密なる人名簿を作成せしめ、苟くも反ドイツ的言動をなすもの、或はユダヤ系のものには一切筆も執らせず、映畫にも音樂にも放送にも出さぬといふ徹底した、しかもドイツを救はんが爲には誠に當然な措置を採つたのであつた。

このやうにドイツの文化統制は英米的世界を打破し、正しい新しい文化を生み育てんとす

る戰ひであつたのであつて、何等の方向もなく、正に變革の時代に直面して正しい方向を以て新しく生み出されんとするものを徒らに抑壓し、英米的現狀にあつてのみ辛うじて生命を保持する現狀維持的な沒落的な方向を持つたものを育成せんとする文化抑壓とは全く異つたものであることを知らねばならぬ。

銘記せよ！英米的世界に在つて常識的なもの、文化的なもの、それ等はこの變革期の嵐の中に泡沫の如く消え去つて行く最も哀れな、最も沒落的なものであることを。そして今こそ愚かしき常識を破り眞に次の時代を建設するに足る輝かしい文化を以て新秩序世界を戰ひとつて行くべき歡喜に滿てる時代であることを。

正しいラヂオ文化とはその戰ひを戰つてゆくことである。

2　日獨伊對英米

短波放送の出現する以前、各國は國境近くに大電力放送局を置いて電波の攻擊を行つてゐ

た。併し短波の研究が進むにつれてその必要は解消した。短波は遙に空を飛び遠隔の地に於てその偉力を發揮する。この新兵器の出現と共に新舊兩秩序國家の放送戰はアフリカに、アジアに、南米に戰場を擴大し、放送による世界戰爭は武力戰に先立つこと數年、既に展開せられてゐたのである。

今次の世界戰爭が植民地搾取の近世史から植民地解放の新史代への世界史的意義を有する故に、日獨伊對英米の放送戰もアフリカ、西南アジア、インド、南洋、南アメリカ等の植民地或は半植民地が最も重要な戰場であり、この放送戰に於ても日獨伊は今や絕對的な優勢を示してゐるのである。植民地を持たず謂はゞ前線に根據地を持たない日獨伊が、植民地を領有し支配してゐる英米側との放送戰に於て何故に優勢を占めるに至つたか。この點に新秩序と舊秩序との本質的な歷史的な相違が見出されるのである。

繰返して言ふが、英米的近世といふものは、植民地を掠奪するやその文化を奪ひ傳統を絕ち住民を無智狀態、奴隷狀態に追ひやり、更にその團結を恐れて宗教、言語、階級等を出來得る限り分離分割して搾取支配を可能ならしめて來たのであつた。從つてこの樣な植民地民

族にラヂオを與へると言ふことは、英米的支配者にとつては全く無意味である計りでなく寧ろ不必要な事柄であり、これがため此等の植民地に設けられた放送局は單に在留英米人のための機關として、本國との連絡、世界情勢の報道或は彼等の娯樂慰安の機關としてのみ存在し、又極く一部の土民上層階級に英米的知識を吹込むことに利用されたに過ぎず、一九三八年（昭和十三年）まではイギリスのラヂオは他國語は一切使はず英語のみを使用してゐたのである。例へば印度の如く人種、宗教、風俗、人情等總てを分離し相互に對立せしめつゝ、少數のイギリス人及び親英分子の支配を可能ならしめ、その言語に至つては細かく分類すれば百を以て數ふるまでに分離したる土地に於て放送を行ふことは、先づ言語の選擇に苦しむばかりでなく最近擡頭し來つた言語統一運動に利用される虞があり、また人情を異にし從つて宣傳方針を異にすべき各州に對して夫々適當な宣傳放送を行ふことは電波の特性からして到底不可能であり、土民語による放送を行ふこと自身既に印度民衆に民族意識を幾分かでも自覺せしめることになる。從つてイギリス的植民地支配政策とその放送政策の一致する點は、親英的上層階級に益々イギリス依存の意識を植付けることと在留イギリス人と本國との連絡

以外には無く、英語放送のみで充分であり、之が舊秩序國家卽ち植民地搾取支配の上に立つ國家の海外放送の本質的性格であつた。

この樣なイギリスの海外放送に對して、イタリアが先づアラビア語放送を以てアフリカ北部、アラビア、西南アジアから東洋に至るアラビア語族、回教徒に呼びかけたのを皮切りに、植民地民族獨立運動或は反英米運動等の指導者達に聲援を送り、獨伊の緊密なる提携成立するやアフリカ、西南アジア、東洋、中南米の被壓迫民族に對して、その各國語による放送は優秀なる放送技術、放送機器と相俟つて日々に盛んになり、更に日獨伊の新秩序樞軸の結成を見た今日、植民地民族解放の雄叫びは正に世界の空を覆はんとするに至つたのである。この新秩序陣營の進擊に英米は急據各國語の海外放送を增設し、植民地放送局を動員して必死の防戰を試みてゐるのである。そしてこの放送戰こそは英米的近世より新秩序世界への長期戰の魁けをなすものであり、玆に新秩序世界の盟主として、被壓迫民族の太陽としての日本の放送戰こそ、この勝敗を決する最も重要な位置を占めてゐることを知らねばならぬ。

日獨伊英米短波海外放送實施表

一、日本（一九四一年五月）

西南アジア向（主要都市）ラングーン、カルカッタ、コロンボ、ボンベイ、カブール

	呼出符號	放送時間（日本時間）	使用國語
第一送信	JZK	前〇・〇〇――前一・五五	ビルマ語、ヒンズー語
第二送信	JZJ		英語、日本語

近東向（主要都市）テヘラン、バクダード、アデン、メッカ、アンカラ

第一送信	JZK	前二・〇〇――前三・三〇	アラビア語
第二送信	JZJ		フランス語、英語

ヨーロッパ向（主要都市）ベルリン、ローマ、パリ、ロンドン

第一送信	JZJ	前四・〇〇――前七・三〇	ドイツ語、イタリア語
第二送信	JLG4		英語、フランス語、日本語

中南米向（主要都市）メキシコ・シティー、ブエノスアイレス、リオデジャネイロ

第一送信　JLU4 ｝前八・〇〇――前九・三〇　｛スペイン語
第二送信　JLG4 ｝　　　　　　　　　　　　｛ポルトガル語、日本語

南米向　（主要都市）ブエノスアイレス、リオデジャネイロ

第一送信　JZJ　後六・〇〇――後七・〇〇　スペイン語、ポルトガル語、日本語

北米東部向　（主要都市）ニューヨーク

第一送信　JLU4 ｝前一〇・〇〇――後一二・〇〇　英語、日本語
第二送信　JLG4 ｝

北米西部向　（主要都市）サンフランシスコ

第一送信　JZK ｝後〇・三〇――後三・〇〇　英語、日本語
第二送信　JZJ ｝

ハワイ向　（主要都市）ホノルル

第一送信　JLU4　後三・三〇――後五・三〇　英語、日本語

濠洲、ニュージランド向　（主要都市）シドニー、メルボルン、ウエリントン

第一送信　ＪＺＪ　後七・三〇――後八・一五　英語、日本語

支那、南洋向（主要都市）南京、廣東、シンガポール、バタビア

第一送信　ＪＺＫ　後八・〇〇――後一一・三〇　支那標準語、廣東語、福建語、オランダ語、マレー語、英語、日本語

前線向（主要都市）南京、廣東

第一送信　ＪＺＫ　後六・〇〇――後八・〇〇　日本語

南洋向（主要都市）バンコック、サイゴン、廣東、マニラ

第一送信　ＪＺＪ　後八・三〇――後一一・四〇　支那標準語、廣東語、福建語

第二送信　ＪＶＷ３　後一〇・〇五――後一一・四〇　フランス語、タイ語、日本語

支那向（主要都市）廣東、マニラ

第一送信　ＪＯＡＫ２　後一〇・二四――後一一・一五　支那標準語、英語

他に臺灣放送局、在支放送局、滿洲國放送局も右に協力對外放送を爲す。

二、ドイツ（一九四〇年七月）

方向	呼出符號	放送時間（中歐標準時）	使用國語は合計十ヶ國語以上
東アジア	DJQ	七・〇〇—一八・〇〇	
	DJW	七・〇〇—一〇・〇〇	
	DJE	一〇・三〇—一二・五〇	
南アジア	DJB	七・〇〇—一八・〇〇	
	EJA	七・〇〇—一〇・〇〇	
	DJH	一〇・三〇—一八・〇〇	
アフリカ	DJL	七・〇〇—九・〇〇	
	DJD	一七・四〇—二三・三〇	
	DJL	一七・四〇—二三・三〇	
	DJX	一七・四〇—二三・三〇	
	DJC	一九・四五—二三・三〇	
南アメリカ	DJQ	二三・五〇—四・〇〇	
	DJP	二三・五〇—四・〇〇	
	DJE	一三・〇〇—一五・一五	
	DJW	二三・五〇—六・〇〇	
	DZH	二三・五〇—六・〇〇	

	DJQ	四・〇〇——六・〇〇
	DJP	四・〇〇——六・〇〇
	DJR	二三・五〇——六・〇〇
	DJQ	一八・一〇——一九・二五
北アメリカ	DJL	一三・三〇——一六・〇〇
	DJZ	二三・五〇——二・〇〇
	DJB	二三・五〇——六・〇〇
	DJD	三・一五——六・〇〇
	DXB	三・〇〇——八・〇〇

他に中波によるヨーロッパ各國語ニュース放送連續行はる。

三、イタリア（一九四〇年六月）

方向	呼出符號	放送時間（中歐標準時）	使用國語
太平洋諸國向	I2RO3 I2RO6	七・〇〇——八・三〇	英語、イタリア語
フランス語放送	I1RO2 I2RO4	九・三〇——九・四五	フランス語

アラビア諸國向	第一送信	I2RO4、I2RO8	一〇・三〇――一〇・五五	アラビア語
	第二送信	I1BA4、I2RO14、I[illegible]RO15	一八・一五――一九・一〇	アラビア語
極東、マレー、西部濠洲向		I2RO6、I2RO8	一一・〇〇――一三・一五	オランダ語、日本語、支那語、英語、フランス語、イタリア語
在外イタリア人向		I1RO2、I2RO4、I2RO8	一三・二〇――一四・四五	イタリア語
スペイン向	第一送信	I2RO4、I2RO8	一四・四五――一五・〇〇	スペイン語
	第二送信	I1RO1、I1M1、I2RO3	一九・四一――一九・五四	スペイン語

向先	送信	局	時間	言語
	第三送信	I1RO1、I1M1、I2RO9	一・〇〇——一・四〇	スペイン語
ポルトガル向	第一送信	I2RO4、I2RO8	一五・〇〇——一五・一五	ポルトガル語
	第二送信	I2RO3、I2RO4、I2RO8、I1RO2	二二・三〇——二二・四〇	ポルトガル語 イタリア語
中東向		I2RO4、I2RO8	一五・三〇——一六・五〇	フランス語、イラン語、ヒンドスタン語、ベンガル語、英語、イタリア語
東部アフリカ	第一送信	I2RO4、I2RO6	一七・〇〇——二〇・一五	イタリア語
	第二送信	I2RO9、I RO15	二一・三〇——二一・四五	イタリア語

東南ヨーロッパ向	（略）		
中西ヨーロッパ向	（略）		
南アフリカ向	I2RO4 I2RO6	二〇・一五―二〇・三五	土民語、英語
トルコ語放送	I1RO2 I2RO3	二〇・三〇―二〇・五八	トルコ語
外人向	（略）		
國際農業協會向	（略）		
ラテン、アメリカ及ポルトガル向	I2RO3 I2RO4 I2RO8 I1RO2	二四・〇〇―一・五五	スペイン語、ポルトガル語、イタリア語
北米向	I2RO3 I2RO4 I2RO8	二・一五―四・一〇	英語、イタリア語 エスペラント語

その他　船舶向放送、外客誘致放送等あり

二　世界放送戦

四、イギリス（一九四〇年九月）

使用國語は合計十七ヶ國語

方向	呼出符號	放送時間（グリニッチ標準時）
第一送信		
ニュージーランド、南米向	GSB	四・五五――八・一五
濠洲向	GSD、GSB、GSF	
近東向	GSC	四・五五――五・三〇
	GSP	六・一五――八・一五
大洋洲、ニュージーランド、南部、西部アフリカ向	GSI	四・五五――八・一五
カナダ西部向	GSD	
第二送信		
アフリカ向	GSH	一〇・四〇――一三・四五
カナダ、北米向	GSP	一〇・四〇――一二・〇〇
	GSV	一二・一五――一三・四五

極東向	GSI	一〇・四〇——一三・四五
インド、ビルマ、マレイ	GSJ, GSG	一〇・四〇——一三・四五
蘭領印度向	GSG	一三・四五——一四・〇〇
南米向	GST	一〇・四〇——一三・四五

第三送信

極東向	GSI, GSD	一四・〇〇——一六・三〇
インド、ビルマ、マレイ向	GSF, GSG	一四・〇〇——一六・三〇
アフリカ向	GSV	一四・〇〇——一六・四五
南米向	GST	一四・〇〇——一六・三〇
西印度、南米向	GSJ	
カナダ、北米向	GSV	

第四送信

アフリカ向	GSD	一六・五五—二〇・三〇
	GRY	一七・〇〇—二〇・三〇
東部アフリカ、近東向	GSF	一六・五五—二〇・三〇
	GSC	一九・〇〇—二〇・三〇
カナダ、北米向	GSV	一九・〇〇—二〇・三〇
		二〇・五〇—二三・〇〇
アフリカ向	GSC	一六・五五—二〇・三〇
カナダ、北米向	GSD	一六・五五—二〇・三〇
	GSP	
南米向	GSF	一六・五五—二〇・三〇
西印度、南米向	GSF	
五送信		
カナダ、北米向	GSD	二三・二五—二・〇〇
	GSC	
南米向	GSE	二三・二五—二・一五
	GSB	
	GSF	二三・二五—二・〇〇

西印度、南米、インド、ビルマ、マレー、濠洲向	GSN、GSB	二三・二五——二・〇〇

第六送信

カナダ、北米向	GSC	二・二五——四・三〇
カナダ、西部向	GSC	二・三〇——四・三〇
	GSD	二・二五——四・三〇
南　米　向	GSB	
西印度、南米、インド	GSB	二・二五——四・三〇
ビルマ、マレー、濠洲	GSN	

五、アメリカ（一九四〇年六月）

（アメリカは私營會社各自に海外短波放送を行ふ。此所にはアメリカが最も力を注いでゐる南米向のみを掲載する）

會社名	呼出符號	放送時間（東部標準時）
NBC	WRCA	一二・〇〇——一五・三〇
	WRCA	一六・〇〇—— 一・〇〇

	WNBI	一六・〇〇—二一・一五
	WNBI	二一・一五—一・〇〇
GEC	WGEA	八・〇〇—一一・〇〇
	WGEA	一七・一五—二〇・一五
	WGEA	一七・〇〇—二三・〇〇
	WGEI	一七・三〇—二三・〇〇
WHEC	WPIT	九・〇〇—一〇・〇〇
	WPIT	一〇・〇〇—一三・〇〇
	WPIT	一一・〇〇—一・三〇
CBS	WCBX	一七・三〇—二一・〇〇
	WCBX	二一・三〇—二三・三〇
	WCBX	二三・〇〇—一・〇〇
WCAU	WCAB	一一・〇〇—一五・三〇
CEC	WLWO	八・〇〇—一八・〇〇
	WLWO	二三・〇〇—二・〇〇
	WLWO	五・四五—一五・〇〇

W W C

WRUW	二〇・三〇―二一・〇〇
WRUW	二一・〇〇―二一・三〇
WRUL	二〇・三〇―二一・〇〇
WRUL	二一・〇〇―二一・三〇

3 オリンピック放送

放送といふものは如何に放送局で電波を發射しても聴く設備が無ければ問題にならず、また特に海外放送にあつては種々の放送の中から一つの放送だけを聴かせるには餘程の努力を要するものであり、こゝに海外の聴取者組織の問題が極めて重要になつてくる。ドイツやイタリーの海外放送が各地に優勢を占めてゐるのは、一つにはこの聴取者組織の整備に因るものである。

一九三六年（昭和十一年）、この年こそはナチス・ドイツの戰爭國家體制が大略の完成を見た年であり、今次のポーランド戰後直ちに發行されたポーランド用の戰時紙幣には「一九

三六年」の年號が印刷されてゐたと言はれる。この年ベルリンに開催されたオリンピック競技も、ヒトラー總統の綿密なる頭腦の中にあつては、正に戰爭國家體制完備の一部をなす計畫に他ならなかつた。

●

全力を擧げて鬪ふ各國の代表者、之を毎日缺かさず熱心に觀察するヒトラー總統は其處に各民族、各國民の性格が最も端的に表現されることを知つてゐた。矛盾に滿ちたアメリカの構成と有色人種のエネルギーを象徴して疾走する黒人オウエンス、入場式にナチス式敬禮を以て滿場の喝采を受けたフランスの若人いま如何、民族再興の責任を負うて敢鬪するドイツ選手、そして夕暮迫る競技場に世界の運命を暗示するかの如く戰ふ日米の棒高跳、この日は外相官邸に於て日獨の間に重要協議——日獨防共協定——が行はれる事になつて居り、ヒトラー總統の競技場行も當然取止と豫想されて居つたにも拘らず總統は相變らず競技場へ、そして我が西田、大江兩選手の健鬪を注視する。やがて官邸に歸つた總統は即座に防共協定に同意、玆に歴史的盟約の基礎は置かれたのである。いとも無造作に決定されたその裏に「眞に祖國の名譽の爲に戰ふものは日本選手のみ、斯かる國民こそ眞に信頼するに足る」とのヒ

トラー總統の言葉があつたのである。更に競技場外に設備された選手宿舍は今軍用宿舍として、各地から競技場に向つて敷かれた交通網は軍用道路として利用され、またドイツ新聞の特派員は之を機會に世界各所に派遣され通信網を整備する。そして世界の耳目がベルリンに集中したその時にドイツの短波放送はその聽取者を世界に獲得したのであつた。

先づベルリン郊外のツエーゼン短波送信所を擴充、競技場に展開する熱鬪の實況放送を世界各國に送出する一方、豫てナチス植民地委員會に整備された海外在住ドイツ人、ドイツ系住民の綿密なリストを基とし、それ等の人々を夫々の職業に應じて動員し、商店、ホテル、新聞社、會社、工場、クラブ或は個人的關係を通じてプログラム、テキスト、パンフレット等の配布網、受信機販賣網、或は聽取者集團等を組織し、オリンピック實況放送で獲得した聽取者を巧みに組織化して了つたのである。又それ等の人々を通じて各種の調査資料或は政治情報を入手することに依つて海外諜報網（所謂第五列）を構成したのであつた。

この通信放送網が今次の戰爭に如何に活躍したかに就いては最早此處に改めて說く必要はなからう。

4　イタリアの回教徒指導

一九三五年、ムソリーニが抱く大ローマ帝國復興への第一歩としてのエチオピア戰爭が開始されるやイギリスは、その支配下にある全通信網、新聞、雜誌等あらゆる機關を動員して反伊宣傳を世界に撒いたのであつた。――その結果世界の同情がエチオピアに集まりイタリアは全く孤立に陷つたことはよく御存知であらう。そして滿洲事變、支那事變初期の日本の孤立狀態もイギリスのためにイタリアと同樣の立場に置かれたことが判るであらう。――そしてこのイギリスの攻勢に對してイタリアはバリ短波放送所から各國語、就中アラビア語の放送を以て對抗し、アラビアの反英獨立運動を援助指導することによつてイギリスを脅かしたのであつた。こゝにパレスチナ問題が世界史の舞臺に登場する。

第一次世界大戰にトルコがドイツ側に參戰し、地中海及びスエズ運河を通ずるイギリスのルートは危機に直面したのであつた。かくてイギリスはアラビアに對し當時トルコの支配下

にあつたシリア、ヘヂヤス地方（パレスチナを含む）に於けるアラビア人の獨立を認めると いふ條件を以て一九一五年トルコに叛旗を飜さしめトルコの背後を衝かしめたのであつた。一方一九一七年に至りユダヤの金融力を必要としたイギリスは、バルフォア外相をしてロンドンのロスチャイルドと交渉せしめ、戰後パレスチナをユダヤ人に與へることを代償としてその援助を得たのであつた。このパレスチナに關する二つの矛盾した約束のまゝに大戰は終了、しかもイギリスはパレスチナの地理的重要性、ケルクク・ハイファ間の石油輸送管保護等の見地からイラク、パレスチナを委任統治領とし、シリアをフランスの委任統治領とするや、アラビア人ユダヤ人は共に憤激、しかもイギリスはこの兩者を抗爭せしめつゝ支配を續けんとする、一九三六年以來パレスチナを巡る三者の鬪爭は次第に激化しつゝあつた。玆にイタリアはスペイン、北アフリカ、小アジア、西南アジア、東洋を通ずる回教徒線の再構成に依り、イギリスの海洋ルートを地中海、スエズに於て斷たんとし、アラビア語による反英放送はイギリスの妨害にも拘らず益々熾烈を極め、やがて一九三七年リビア訪問のムソリーニ首相の歷史的大演説が展開される。——

「アラビア人よ！　諸君の祖先は、中世ヨーロッパが、輝かしきエジプト、ギリシヤ並に小アジアの文明を中斷した時に、最も高邁な精神と鬪爭によつて、それら人類の偉大な文化遺產を繼承し研鑽し、以てヨーロッパの近世的勃興に對する架橋の大業をなしたのである。我我の近世ルネッサンスも諸君の祖先の文化傳承なくしては全く不可能であつた。ヨーロッパの近世諸國家は諸君の文化遺產によつて而めて成立したのである。謂はゞ諸君は我々近世ヨーロツパの恩人なのである。しかるに今日、その諸君が、イギリスの帝國主義的侵略と搾取の下に呻吟せる歷史の事實を、ヨーロッパの唯一の目覺めたる魂は凝視してきた。イタリアは今や、その魂の命令に從ひ、ヨーロッパ諸國家を代表して、その正當なる報恩の義務を履行せんとする、敢然と我々は正義の名の下に、アラビア人の保護者たることを宣言す。」

ムソリーニがその大アフリカ主義の幹線として建設したリビアの自動車道路竣工の式典に臨み回教徒諸民族に向つてなしたこの演說が、幾度か電波に乘つてアラビア人を中心とする回教徒圈に傳へられるや、反英運動は各地に猛然と起り、イギリスの血管たる石油輸送管は破壞され、イギリス系放送局は爆彈を投ぜられ、放送中繼線は切斷される等のテロが相次い

で行はれたのであつた。この反英運動の展開と同時にイタリアはオルガナイザーを回教徒線に派遣し自己の陣營に組織して行つたのである。

この攻勢に堪へ兼ねてイギリス短波放送は遂に傳統を破つてアラビア語放送を開始、イェルサレムのイギリス系放送局に中繼再放送を行はしめ、之を機會にアラビア人に受信機を殆ど無料で提供し聽取者を獲得せんとしたのであるが、アラビア人はこの受信機を用ひて獨伊の放送を聽取し反英闘爭に利用するに至り、イギリスは全く周章狼狽この受信機の回收を行ふといふ有樣であつた。

一方ユダヤ人は放送船を以てパレスチナ沿岸の各所より祕密裡に反アラビア、反イギリスの放送を行ひユダヤ人指導を行つたと傳へられてゐる。

かくてイタリア並にドイツの西南アジアに於ける電波の勢力は今や壓倒的優勢を示さんとするに至り、この上は回教徒圈の動向を最後的に決定化せしむるであらう所の東洋並に南洋から西南アジアに至る回教徒線に對する日本の速かなる働きかけを俟つのみである。

回教の祖マホメットが望んで已まなかつたアラビア人の救濟は、今や日本の世界建設によ

つて初めて果されるのである。

5　中南米放送戰

「――アメリカの對南米輸出は激減し、ドイツのそれは增加しつゝある。ドイツの商品が質が良くて價格が安いといふ理由だけでなく、ドイツが、あれ程獨裁主義の嫌ひな南米國民にさへ好ましい印象を與へてゐるといふことは驚くべきことである」

とアメリカ人がドイツの南米放送の怖るべきことを說いてゐる如く、ドイツの中南米向短波放送はオリンピックを機會に多くの聽取者を獲得し、その影響は至大なものがあつた。この他に獨伊はカトリック敎會の線並にスペイン戰爭を通してスペイン、ポルトガルの系統――それは十五世紀以降中南米に多大の勢力を殘してゐる――を握り、着々とその地步を固めて行つたのである。

此所でも赤英米陣營は完全に立遲れ、南米リマ會議を終へて歸つたアメリカのハル長官は、

「獨裁國家の好ましからざる影響から南米諸國を救ふため、アメリカは近代の十字軍を起さねばならぬ、凡ゆる文化と宣傳の機關を動員して、——例へば經濟、政治、文明特にラヂオを——」

と强調してこの劣勢を回復せんと活動を開始したのであるが、アメリカのラヂオは幾つかの私營會社の經營する所であり、各〻の利益を競つて對立し聽取者の御機嫌伺ひに汲々とし、統制ある强力な宣傳はアメリカ政府の躍起の狀況にも拘らず中々進展を見なかつた。次に掲げるアメリカ放送關係者の論文は、表面は誠に冷靜に都合よく事が運んでゐるかの樣に見え乍ら、その裏にアメリカの弱點とその焦燥が明白に感じられるであらう。

「アメリカは本腰を据ゑて外國向短波放送を始めた。これを宣傳放送といはうとニュース放送といはうと、それとも敎育放送乃至は慰安放送と見做さうと、それは自由である。過去二年餘の間獨伊兩國がラテン・アメリカ(中南米)諸國の放送界を牛耳つてゐるとの報告や風評を耳にして、アメリカ人はファシズムの大規模な宣傳の善隣國に及ぼす影響につき大いに恐れをなしてゐた。併しこの間にあつてアメリカ放送界は別に騷がず、放送設備の建設完成

に努め、試驗放送を行ひ人員の整備に當つてゐた。今日ではアメリカの外國向放送も既に一人前となり各國の南米向放送と競爭しても決して負をとらないやうになつた。將來の發展を計らんとの現在のプランから考へて見ても今後二年位の間はこの競爭は終りさうにもない。

外國向短波放送の第一線に我が國が乘出すこととなつたのは、獨伊その他の國の南北アメリカに於ける宣傳放送に對抗競爭しようとのアメリカ放送界側の努力のお蔭ではあるが、それはモンロー主義を弱めようとする脅威を防がうとの意圖を藏して居り、獨伊の侵入を喰止めてラテン・アメリカ諸國に於ける貿易上の我が指導權を守る必要が認められたからであり、アメリカの外國向放送の技術に對し獨伊のみならず歐洲列强の開始した挑戰に應じたことにもなる。又それはアメリカの善隣政策と歩調を合せるものであり、結局は民營の放送會社が政府に向つて、放送會社は彼等の責任を自覺し世界の如何なるところでも必要な所ではアメリカ政府と共にデモクラシーのために役に立ち得ることを證明したことにもなる。

それは間接には各國のラテン・アメリカ向短波放送プロを調査するとき短波放送ではアメリカは獨伊以下の貧弱な第三流の國であるとの報告を商務省が一年前に提出したこと、諸般

の放送問題の研究並に新計畫の提案を目的とする一委員會をルーズヴェルト大統領が任命したこと、また前の會期に國營短波放送局設立に關する二法案が議會に提出されたことなどに刺戟された結果である。この二法案はいづれも民營の放送會社では外國向放送に當る力がなく又その資格もないものとして提出されたものである。それらは全文を通じて、聯邦放送局設立の主要目的がアメリカとラテン・アメリカに於ける隣邦諸國との親善・理解の增進にあることを强調してゐたが、國内の放送に關する條項も含んでゐる。これに對し政界方面では大統領並に政府のスポークスマンがこの國營放送施設を驅使して反對派の新聞の論調を覆すに至るだらうといつてゐた。

ニューヨーク州選出下院議員エマヌエル・セラー氏並にニュー・メキシコ州選出上院議員テニス・チャーヴズ氏は昨冬この二法案を議會に提出したのであるが、その際同法案は政府が國營の放送局を作り民營の放送會社と競爭しようとの意向からではない旨を説明し、ラテン・アメリカ諸國に於ける歐洲のファッショ諸國の短波による害毒を消滅すべき何等かの手段を採らなければならないと思ふからであると繰返して述べたのであつた。といふのは、民

營放送會社ではかゝる仕事を十分に果すことが出來るものではなく、またそれに適してゐないと考へてゐたからである。

そこで彼等は政府が管理運營する聯邦放送局の設立を要求したのであつた。セラー案は放送施設の建設維持を海軍省の手に委ねようとするものであり、一方チャーヴズ案は放送施設を國務省と海軍大臣を一委員とする諮問委員會との監督管理の下におかうとするものであつた。兩法案共にそれに要する豫算額をはつきりと示してはゐなかつたが、建設費三百萬弗、それに一ケ年の經常費十萬弗見當を計上してゐた。

海軍軍事委員會の席上セラー氏は隣接の南米諸國の間に起りつゝある恐るべき狀態を說明し、ドイツは放送に於て最優位を保持するために巨費を投ずるだらうから、如何に資金があるからといつても民營の放送會社では獨逸に打勝つことは出來ないだらう。短波及び强力の長波による放送は今や獨・伊・ソ・日等の國際宣傳國の常套手段となつてゐる。彼等は巧妙な計畫的な言語道斷なデマ放送によつてデモクラシーと自由主義とを破壞し、ファシズム・コンミュニズム・ナチィズムといふ不正な信仰を作り上げようと企てゝゐると警告した。

チャーヴズ氏はあまり杞憂を抱く方ではないのだが、上院に於ける聯邦商事委員會の席上次の如く述べた。

「南米諸國との親善關係の增進は是非とも必要であり、これがためには國營の放送局によるのが最上の道だと思ふ。今こそアメリカは、米國民の中にも南米諸國を理解してゐる人のあることをラテン・アメリカ人に示すべき時である」と。

更にセラー並にチャーヴズの兩氏は若し民營の放送會社が既にこの目的達成のために必要な宣傳事業に着手してゐるか、或は近い將來にこれを實行に移すべきプランを作成してゐるといふ事實があるかするならば喜んでこの法案を撤回しようと述べた。

昨春下院の委員會にこの法案を提出した當時、民營放送會社が既に國際短波放送の設立を考へてゐたことを兩氏のうちの何れかゞ承知してゐたかどうかは甚だ疑はしい。又一年餘り前同法案が立案された當時、民營放送會社に外國向放送を積極的にやらうとの氣持が殆どなかつたことも事實かも知れない。けれどもその後放送會社は沈默の裡に試驗放送を行ひ、海外放送のために下準備をしてゐた。昨春委員會が審議を開始した頃にはすでに同計畫は實施

されんとしてゐた。こんな實情だつたから民營放送會社の短波放送の全貌が發表された時、下院の委員達は半信半疑ながらも且は喜び且は驚き、結局この二法案の審議が無期延期に附せられるに至つたのも不思議ではない――（中略）――

ムッソリーニはひとり南米のみならずイギリスの統治に反對のパレスタインのアラビア人を煽動したり、又一方ではスペインのフランコ政權に反對するポルトガルに警告を與へたり、極東・近東に於ける英國の勢力を弱めようとしたり、すべて歐亞に於ける作戰遂行のためにイタリーの放送を利用してゐる。

以上のことはラヂオがなかつたら獨・伊兩國が南米諸國に勢力を得るに至らなかつたといふことを意味するものではないが、兩國は南米向短波放送が政治的・經濟的に有利であることを一番早く認めたのであり、既にかなりの效果をあげてゐる。――（中略）――ドイツ、イタリーは第一に南米に地盤を有つて居り、第二には優秀な南米向短波放送の設備を有してゐるから、南米に於ける受信機の所有者が增加すれば直ちに獨・伊の勢力も擴大される可能性が大きい。更に現在とつてゐる方法が誤つてゐたことに氣がつくに至れば技術を改善し番組

を改良することは確かである。だから獨・伊の短波放送はその將來にあり、既設の基礎の上に加へられる將來の活動こそ米國が恐れる必要のあることである。

ラテン・アメリカに關するもう一つの關心事はドイツ又はイタリーが或は兩國が一になつて短波放送及びそれを援けるため現地で働いてゐる宣傳部員の力により中・南米に於ける米國の貿易上のリーダーシップをも奪ひとるに至るだらうといふことである。獨伊兩國と南米諸國の貿易額はこの三ケ年に著々增加して居り、たとへ米國が首位であることは變りないといへ少くとも脅威をうける可能性はある。今一つ考へなければならないことは過去十五ケ年以上にわたり、アメリカの短波技術はいづれの點からみても時代遲れだといふ好ましくない評判があることである。その判斷が果して妥當であるか否かは別としても、かうした不評が行はれてゐることは、長波では世界で一番進步してゐるといはれる米國にとつていゝことではない。

アメリカの諸放送會社は米國の威信・貿易・技術に對する挑戰を受諾した。これが外國向放送のみならず國內放送までも行ふ國營放送局が出來るといふ更に大きな恐怖に刺戟された

ためかどうかは讀者の推察に委せるが、たゞ大切なことは國營放送であれ民營放送であれ米國は現在は外國向短波放送を實施中であり、而も第一流の外國向放送を行つてゐるといふことである。施設を改善しプロを完全にするまでには二年の歳月を要したが基礎は既に出來上つてゐる。この夏には十四の放送局が中・南米のみならず歐洲・極東に對しても短波放送を行つた。現在は放送時間もプログラムの內容も驚くほど擴張され、九ケ月前にくらべ殆ど七十五パーセントの增加を示してゐる。放送は六ケ國語で行はれて居りラテン・アメリカ向けのニュースなどの報道放送ではアメリカが歐洲のいづれの國よりも上位に位して居る。——(下略)——」(M・E・トレーシー、一九三八年)(放送調査資料掲載)

斯くの如くアメリカを脅かした獨伊の放送、アフリカに、西南アジアに、中南米に優勢を示す獨伊の放送に、更に日本の東洋放送圈が加はる時、世界の大半は新秩序放送で埋められるのである。

そして日本の大東亞放送圈確立こそが英米陣營の沒落に最後的な決定權を持つものであることを再び强調して置きたい。何故ならば東洋植民地こそが英米陣營の最も重要な決定的な

地盤であるが故に。
そして我々が今日、新舊兩秩序の戰を歷史的な必然として考へるとき、在外邦人の組織、二世の組織、或はネグロその他の有色民族への働きかけ、叉アジア太平洋圈の全面的調査、獨伊との共同戰線等の問題は最早目睫の問題として急速に實行されねばならぬ。そしてラヂオこそは、その第一線の武器として用ひられると同時に、その戰ひを通して新なる世界の新なる文化を生み出して行くものでなければならぬ。

附錄

一、「戰爭文化」緊急版の序文

（昭和十四年八月卅一日）

戰爭文化宣言

日本の立場は、獨ソ不可侵條約に對し、あくまで嚴然たるものたるべきである、しかもこれにより果して、いかなる不利を蒙れるか否かを冷靜に判斷せず、徒らに無意味なる不安と困亂と猜忌を、機に乘じて、宣傳、放送するものあるを斷乎排せねばならぬ。

ことに、日獨伊離間に汲々たるイギリス系の宣傳ニュースを、いかにも事實らしく過大に報道し、徒らに人心を攪亂し、昂奮せしめることに對し、日本はあくまでも自ら信ずる方向に不動の邁進を續くべきである。

日本の大道は、獨ソ不可侵條約により、益〻有利に展開せんとすることは、今や疑ふべからざることである。——或る者の無能によつて生じたる事象が、却つてより大なる結實をもたらすことは、屢〻歷史發展の上に見るところである。

今やヨーロッパは完全に戰爭體系に入り、その大戰の緒戰は、すでに開始せられ、さらに大なる決定的戰爭も、すでに時日の問題として眼前に展開する。

イギリスは自らの老猾なる外交戰略により、巧みに成功し、勝利したるが如くでありながら、それが更に深刻なる破局に迫りつゝあるのを見る。——こゝにすでにイギリスの傳統的外交の死滅を明かに示すものである。——それが老巧なれば老巧なるほど、イギリスの立場は破滅的苦悶の中に沈み行くべき狀勢を形成し行くのである。

しかもこの時において、日本は、須らく最も冷靜に世界史的變革の主體的行動を着々と實現すべきである。——すでに西歐の沒落は、刻々として、その最後の時に迫りつゝある。この時、絕對に過去の幻影のために滅び行く彼等の僞瞞的誘惑に迷はさるべきではない。

――沒落すべきものをして、惜しみなく沒落せしめよ。

二、同盟旬報（昭和十五年八月）

英國の對日宣傳諜報組織の概要

【七・二九】非常時日本の嚴格な法網をくゞつて躍る外國諜報網に對し當局は廿七日遂に檢擧の斷を下した、支那事變勃發以來英國を始め敵性列國が我が國に張りめぐらした諜報宣傳諜略網は經濟、宗教、通信等各種の組織體を通じて合法の假面の下に巧妙に行はれ廣範圍に及んでゐたものでいま英國の日本に對する宣傳諜報組織網の概要を見ると次の通りである。

（一）英國宣傳系統の概要　內閣の下に外務省と竝んで情報省があり情報省の下には宣傳、新聞、出版各局及各種學術團體があり宣傳局には宣傳部、出版局には映畫課と册子課がある、極東に對する宣傳のためには特に宣傳部に極東課をおき更に香港に極東部を置いて駐日英國

大使館と連絡をとり大使館では東京に文化研究所と情報（宣傳）部を置きレッドマンが採配を振つてゐるが、この文化研究所と情報部の下には東京委員會をはじめ横濱、神戸、京城の各領事館に横濱、關西京城の各委員會があつてそれぞれ宣傳に從事してゐる。

（二）宣傳要綱　日本に對する宣傳の目的を大體次の樣に指令してゐる①日本が英側に參加して參戰するやうに輿論を誘導②日本が獨伊側に軍事的援助を與へぬやうに導く③日本が獨伊側に物質的援助を與へぬやう物資輸出を最少限度にさせる④日ソ不可侵條約の締結を妨害

（三）宣傳要領　右の宣傳要綱に從つてどんな手段をとつてゐるかを見ると日本を英側に參加せしめるためには(イ)親英的上層階級に働きかけ(ロ)日英の共同提携が東亞の安定性に最も必要であることを說き(ハ)獨ソ接近が將來東亞に有害な作用を及ぼすことを說いて日本を獨逸の反對の立場に追ひ込む事、又日本が獨伊側に軍事的援助を與へぬやう導くためには**獨ソ協定によつて日本が裏切られたとの感情を冷まさぬやう**、最後の勝利は英側にあることを強調し、獨伊側に物質的援助を與へぬためには獨伊側には限定された資源しか必要がない

附　錄

事、獨逸側の支拂繼續は不可能であり英國は日本から多量の物質を購入して居り戰爭の進展と共にその量は增大する、又日本は英國側からでないと必要資源を得ることが出來ない、結局獨側に物質的援助を與へるのは日本の損失だ、といふ事を宣傳せしめ、最後に日ソ不可侵條約締結妨害のためには日ソ間の歷史的宿命、ソ聯の外蒙古への侵入、中國共產黨援助、援蔣行爲等を强調

（四）宣傳對象　日本人への宣傳は一般大衆を目標とする必要はないとして元老、重臣、社會の**上層階級及言論界の有力者又は中堅分子を目標とし**特に親英分子を選び又右翼方面の一部にも働きかけ漸次一般大衆に及ぼさうといふ方針をとつてゐる。

（五）宣傳の方法　パンフレットやニュースの配布、會合の開催、映畫の配給等を行つてゐるが、パンフレット、ニュース等も英語で書いたものを日本人が喜ぶのでこの點を注意し英國問題中心の會合の出席者に親英分子の多いことを指摘宣傳の機を狙つてゐる。

（六）宣傳の實績　全般的には我國も前大戰の時の英國の宣傳振りを知つてゐるので宣傳の

効果は左程でもないが、前大戰の時代をよく知らぬ若いゼネレーションは相當の影響を受けてゐるやうである。英國の宣傳用のニュース配布先をみると各種商社宛約一千百、個人宛約八百(外人約三百五十、日本人約四百五十)新聞雜誌社宛約二百五十、學校宛約百その他教會官公署宛約百となつて居り相當廣範圍の影響力は見逃せない。日本に於ける英國の諜報宣傳の温床體ともいふべき英國系商社團體等は非常に多く商社約二百(資本金五萬圓以上のもの)協會、倶樂部約卅學校約八百十、教會約二千を數へ軍用資源祕密保護法が實施されても日本の重要な會社や工場に英國系資本が入つてゐるので重要な會社や工場の祕密が極めて合法的に知られてしまふといふ譯で、この種のものとして代表的な商社は〇〇で横濱の本社の下に東京、臺北、京城、大阪に支店と小樽、仙臺、名古屋、博多に營業所がありこれら支店營業所は全國に三十ケ所の出張所と更に千數百ケ所の販賣網を通じてあらゆる諜報が蒐集され思想的謀略が行はれるのだ。かつてこの商社が滿洲事變當時日本に於ける飛行場を調査して當局の忌諱に觸れたことがあつたが、商品販賣上の必要といふ極めて合法的な名目の下に巧み

に行つてゐる點が注目される。　我國に於ける英國の諜報宣傳網を一掃するためには斷乎英國依存の態度を一擲する必要があり今回先づ外國諜報網の一部に斷が下された譯だ。

ナチスの放送戰爭

昭和十六年七月十五日印刷
昭和十六年七月二十日發行

――(¥0.60)――

著作者 深尾重正
東京市神田區神保町三丁目一三

發行者 北原鐵雄
東京市神田區神保町三丁目二七

印刷人 大庭公平
東京市神田區神保町三丁目二七

印刷所 株式會社 法文社印刷所
東京市神田區神保町三丁目二七

發行所 アルス
東京市神田區神保町三丁目一三
電話九段二一七五・二一六七
振替東京二四八八八番

配給元 日本出版配給株式會社
東京市神田區淡路町二丁目九

*ナチスの放送戰爭　深尾重正著
ナチスの國土計畫　坂倉準三著
ナチス獨逸の建築　大谷龍雄著
ナチス史學　吉田三郎著
ナチスの自然科學　泉三郎著
*ナチスの科學政策　深尾重光著
*獨逸の海軍　小島秀雄著
ナチスの機械化部隊　山縣有光著
*ナチスの空軍　泉三郎著
ナチスの音樂　エッケルト著
ナチス婦人勤勞奉仕團　キーファー著
*戰時下のナチス獨逸　藤澤親雄著
ナチス演說集　木村捨象著
ナチスの文學　ゼッケル著
ナチス藝術　井上清一著
ナチスの植民政策　小倉虎治著
ナチスの美術機構　嘉門安雄

*獨佛關係　鈴木啓介著
ナチスの出版政策　福田虎雄著
歐洲新體制と獨逸　平出英夫著
*ナチスのユダヤ政策　清水宣雄著
*實戰場裡のナチス　於田秋光著
ナチスの哲學　山本饒著
ナチスの演劇　三宅善三著
ナチスの映畫　川添紫郎著
*ヒットラー傳　滿田巖著
ナチス教育論　坂本稻太郎著
*ナチスの地理建設　川上健三著
第二次大戰史集　滿田・小倉・吉田著
日獨交涉史　中村光著
ナチスの宗教政策　堀一郎著
ナチスの音樂史　牧定忠著
ナチスの教育政策　伏見猛彌著

*ハ既刊　以下續々刊行

戰爭文學會編

世界戰爭文學全集

全二十五卷

＊第一卷　イリアス（トロヤ戰爭）　ホメロス
＊第二卷　ギリシヤ・ペルシヤ戰爭　ヘロドトス
＊第三卷　ペロポンネソス戰爭　ツキヂデス
＊第四卷　ガリア戰記　シーザー
＊第五卷　アイネイス（羅馬建國戰爭）　ヴェルギリウス
＊第六卷　ロオランの歌（回敎戰爭）
＊第七卷　ニーベルンゲンの歌（中世亞細亞・歐羅巴戰爭）

＊第八巻　アーサー王物語（騎士道戰爭）　タッソー

＊第九巻　解放されたエルサレム（十字軍戰爭）　シェークスピア

＊第十巻　英國世界征覇序曲　ダンテ・ルーテル・ミルトン

＊第十一巻　宗教戰爭　コルネイユ・ラシイヌ・セヴィニエ夫人

＊第十二巻　佛蘭西王朝戰爭　ヴォルテール

＊第十三巻　シャルル十二世（北方戰爭）　シルラー

＊第十四巻　三十年戰役史　ゲーテ

＊第十五巻　エグモント（和蘭獨立戰爭）　スコット

＊第十六巻　タリスマン（十字軍戰爭）　バイロン

＊第十七巻　サルダナパラス（アッシリア滅亡戰爭）　キーツ

＊第十八巻　オットー大帝（神聖羅馬帝國戰爭）

＊第十九卷　世紀の傳說（人類鬪爭史詩）　ユーゴー

＊第二十卷　ナポレオン戰爭　ラスカーズ・ショー・ハーデイ・ゲーテ・トルストイ　バルザック・ムッソリーニ・ユーゴー・スタンダアル

＊第二十一卷　壞滅（普佛戰爭　上・下二卷）　ゾラ

＊第二十二卷　ピョートルとアレクセイ（北方戰爭）　メレヂコフスキイ

＊第二十三卷・南北戰爭（上・下二卷）　シンクレア

＊第二十四卷　第一次歐洲大戰　編輯

＊第二十五卷　世界變革戰爭　編輯

各卷解說

歐洲戰爭文化史　歐洲戰爭經濟史

歐洲戰爭科學史　歐洲戰爭藝術史

歐洲戰爭文學史

丸山熊雄著

戰爭文學論

戰爭文學は眞の文化の母である!!

本書は民族的世界觀に立脚して、眞の文學としての戰爭文學の位置と使命を確立し、わが日本民族の戰ひと歌とに世界史的指導原理を與へて純正なる文學の要請したるもの。日本文藝復興を提唱する著者畢生の努力になる名著である。從來戰爭文學の傑作として謳はれたものが、實は戰ひの内面の中の無意味な行爲や、内容空虛な情景の羅列で、結局戰爭全體の現實的意義を抹殺したもの、云ひかへれば最もよく戰爭目的を否定したものが多い、この反戰文學、ニヒリズムに挑戰して象徵的な神話の再建、英雄翹望の叫びを擧げたのが本書である。

現代は正に戰爭と文學の時代だ!!

四六判・二八四頁　定價一圓五十錢